
岐阜県立高等学校の活性化に関する検討まとめ

（岐阜県立高等学校ふるさと教育関連事業実施報告）

＜令和元年度＞

令和2年3月
岐阜県教育委員会

目次

1	本検討まとめについて.....	1
2	令和元年度 の 取組結果.....	1
	(1) 令和2年度 の 入学者選抜 に 係る 学 科改編等.....	2
	(2) 令和2年度 の 県立 高 等 学 校 入 学者選抜 の 改善.....	4
	(3) ふるさと 教 育 関 連 事 業 の 報告.....	5
	(4) ICT 環 境 整 備.....	41
	(5) 進 学 指 導 推 進 事 業	45
	(6) スーパー ハ イ ス ク ー ル セ ッ シ ョ ン (SSS)	47
	(7) 高 等 学 校 に お け る 演 劇 等 ワ ー ク シ ョ ッ プ 事 業.....	47
3	令和2年度 以 降 の 取組 内 容 と 今 後 の 方 向 性.....	48
	(1) 学 校 運 営 協 議 会 設 置 の 推 進	48
	(2) 進 学 指 導 推 進 事 業 の 拡 大	48
	(3) 高 等 学 校 に お け る 演 劇 等 ワ ー ク シ ョ ッ プ 事 業.....	48
	(4) ICT 環 境 の 活 用	48
	(5) 遠 隔 教 育 の 実 証 研 究	49
	(6) 県立 高 校 の 在 り 方 に つ い て の 方 向 性.....	49
4	令和3年度 の 入 学 者 選 抜 及 び 学 科 改 編 等	50
	(1) 令和3年度 の 学 科 改 編 等.....	50
	(2) 県外 募 集 実 施 校 の 変 更	52
	(3) 令和3年度 の 県立 高 等 学 校 入 学 者 選 抜	53
	資料編.....	56

1 本検討まとめについて

○ 県教育委員会では、平成28年3月に岐阜県立高等学校活性化計画策定委員会から提出された「審議まとめ」を受け、以降、県立高校の活性化の方策について具体的な検討を進め、年度ごとに取組結果等を「検討まとめ」として取りまとめてきた。

今回、新たに発表する本報告は、岐阜県立高等学校の活性化に向けた令和元年度の実施状況、令和2年度以降の取組内容、及び令和3年度（現中学校3年生が入学する年度）に実施する学科改編等について示すとともに、平成31年3月に策定した岐阜県教育振興基本計画（第3次岐阜県教育ビジョン）に掲げた「ふるさと教育」関連事業等の令和元年度の実施状況について報告するものである。

2 令和元年度の実施結果

○ 「平成28年度の検討まとめ」において、県立高校の活性化の基本方針として、高校の特性に応じた活性化の基本的な考え方を定め、具体的な活性化策を例示したものをグランドデザインとした。このグランドデザインに基づき、例えば、個別のより高度な学習ニーズへの対応、大学合格実績の向上、大学から就職までを含めた多様な進路希望への対応、地域産業を担う人材育成、さらには多様な学習スタイルへの対応など、高校の特性に応じた活性化策を検討し、毎年度、具体的な取組として実行してきた。令和元年度の実施結果は次頁以下のとおりである。

<県立高校活性化の基本方針（グランドデザイン）>

	特性（進路状況）	活性化の基本的な考え方	具体的な活性化策（例）
普通科等	選抜性の高い大学への進学が多い	<ul style="list-style-type: none"> ○ グローバルリーダーの育成 ○ 個別のより高度な学習ニーズへの対応 ○ 新大学入試制度や新学習指導要領を見据えた探究的な学習を積極的に推進 ○ キャリア教育や進路支援体制を充実 ○ 地域から求められる人材を育成 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 高等教育機関の教育力を積極的に活用したより高度な学習機会の提供 ◆ 少人数による主体的・対話的で深い学びの推進 ◆ 進学重点型の単位制へ改編 ◆ 授業時間以外の補習体制の充実 ◆ 大学卒業後の進路を見据えたキャリア教育の推進
	いわゆる中堅進学校	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主体的に学習できる教育体制の構築 ○ 個別の進路希望へのきめ細やかな対応 ○ 大学合格実績の向上 ○ キャリア教育や進路支援体制を充実 ○ 地域から求められる人材を育成 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 進学希望別（コース別）教育課程の編成 ◆ 進学重点型の単位制へ改編 ◆ 授業時間以外の補習体制の充実 ◆ 大学卒業後の進路を見据えたキャリア教育の推進
総合学科	進路先が多様	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多様な進路希望にきめ細かく対応 ○ 多様な生徒（中途退学経験者、不登校経験者、特別な支援を必要とする生徒等）への対応 ○ キャリア教育や進路支援体制を充実 ○ 地域から求められる人材を育成 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 進路実現型の単位制や総合学科へ改編 ◆ 昼間2部（午前・午後）、通信制（平日スクールタイプ）への改編 ◆ 「少人数コミュニケーション講座」の開設 ◆ デュアルシステムの導入・充実
専門学科	学科によって進路状況に違いがある	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本県の地域産業を担う人材を育成 ○ 少子化に伴う学校の小規模化への対応 ○ 産業構造の変化等による新たなニーズへの対応 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域産業やニーズに応じた学科の再編成や学科名称の変更 ◆ 柔軟な定員設定や類型（くくり）募集 ◆ 学校規模にあった学科改編 ◆ 複数の専門学科の併置校へ改編
定時制・通信制		<ul style="list-style-type: none"> ○ 多様な生徒、多様な学習ニーズや学習スタイルへの対応 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 夜間定時制を多部制に改編（昼間部の新設） ◆ 全日制タイプの高校に改編

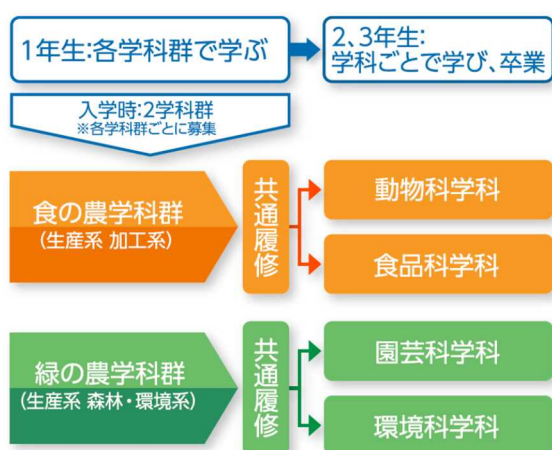
(1) 令和2年度入学者選抜に係る学科改編等

学科改編等（平成31年4月発表）

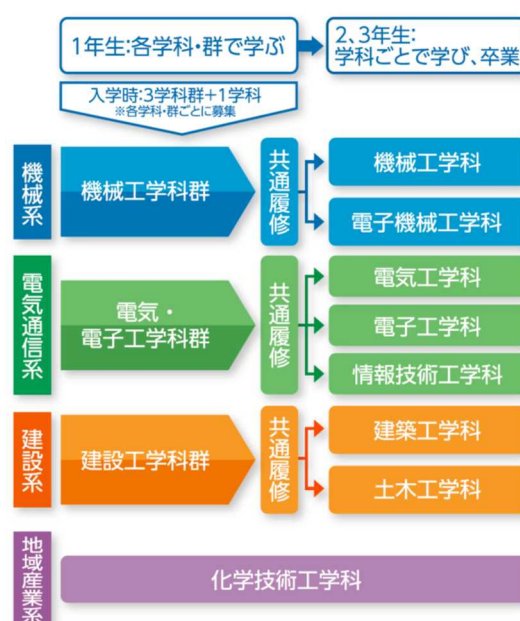
○ 以下のように学科改編等を行った。

学校名	学科改編等の内容
大垣養老	農業科の既存の3学科を動物科学科、食品科学科、園芸科学科、環境科学科の4学科に再編し、食の農学科群と緑の農学科群で募集(※1)
大垣工業	工業科の既存の7学科を、機械工学科、電子機械工学科、電気工学科、電子工学科、情報技術工学科、建築工学科、土木工学科、化学技術工学科の8学科に改編し、3つの学科群と1つの学科で募集(※2)
八百津	単位制を導入 (単位制による全日制課程普通科)
瑞浪	普通科、生活福祉科に単位制を導入 (単位制による全日制課程普通科、生活福祉科)
恵那	普通科、理数科に単位制を導入 (単位制による全日制課程普通科、理数科)
飛騨高山	農業科の既存の3学科を動物科学科、食品科学科、園芸科学科、環境科学科の4学科に再編し、食の農学科群と緑の農学科群として募集(※1)

(※1) 大垣養老高校、飛騨高山高校



(※2) 大垣工業高校



1 学級40人未満の入学定員の設定

- これまでの入学状況や今後の生徒減少期を見据え、平成30年度入学者選抜から一部の高校において、1学級40人未満の定員設定を実施している。令和2年度入学者選抜では、新たに8校で1学級40人未満の定員設定を行った。

平成30年度入学者選抜～：坂下（普通30人、生活文化30人、福祉30人）
吉城（普通30人×3学級、理数30人）

平成31年度入学者選抜～：揖斐（普通30人×2学級、生活環境30人×2学級）
瑞浪（普通35人×2学級、生活福祉35人×2学級）
土岐紅陵（総合学科35人×3学級）
土岐商業（ビジネス35人×4学級、ビジネス情報35人）
恵那南（総合学科30人×2学級）

令和2年度入学者選抜～：岐阜城北（総合35人×4学級）
岐阜各務野（ビジネス35人×4学級）
池田（普通35人×4学級）
武義（商業30人、情報処理30人）
関有知（普通35人×3学級、生活福祉35人）
東濃実業（ビジネス管理35人×2学級、
ビジネス情報35人×2学級、生活文化30人×2学級）
中津商業（ビジネス35人×3学級、ビジネス情報35人）
高山工業（機械32人、電気32人、電子機械32人、建築インテリア40人）

県外からの生徒募集

- 平成30年度入学者選抜から、県外からも意欲の高い生徒が入学することで生徒同士が切磋琢磨できるなどの教育効果を期待して、県外からの生徒募集（以下、県外募集）を実施している。

令和2年度入学者選抜においては、募集校を一部変更し、特色ある教育や部活動に加え、ふるさと教育の分野で、県外募集を行った。

また、新たに、県外募集の実施校の情報などをまとめた専用のホームページを開設するとともに、新聞広告や、バナー広告を実施するなど、より効果的な広報活動に努めた（資料編 参考資料4を参照）。

<令和2年度入学者選抜における県外募集実施校（分野）>
加納（音楽）、不破（スポーツチャンバラ）、海津明誠（ヨット）、関有知（ライフル射撃）、東濃（ロボコン）、多治見工業（セラミック）、恵那農業（ふるさと教育）、坂下（福祉）、益田清風（ふるさと教育）、高山工業（建築インテリア）、飛騨神岡（ロボット）

<県外募集による入学実績>
平成30年度入学者選抜：1名<加納（音楽）>
平成31年度入学者選抜：4名<加納（音楽）、東濃（ロボコン）、恵那農業（園芸）、坂下（福祉）>
令和2年度入学者選抜：5名<加納（音楽）2、海津明誠（ヨット）、恵那農業（ふるさと教育）、高山工業（建築インテリア）>

(2) 令和2年度県立高等学校入学者選抜の改善

追考査の新たな実施

- インフルエンザ罹患者等に対する受検機会の十分な確保や、所定の日程による学力検査の実施が困難となる等の不測の事態に適切に対応するため、第一次選抜、連携型選抜から同選抜の合格発表までの期間に「追検査」を実施した。

なお、これまでと同様に、インフルエンザ罹患者も含め、受検生の健康状態を踏まえた対応として、別室での受検等も実施した。

出願時における第2志望、第3志望の取扱いの変更

- 出願時における第2志望、第3志望の取扱いについて、これまでは、同一分野に属する学科を基本としていたが、音楽科と美術科を除き、同一校であれば、第2志望、第3志望とすることができるようにした。

連携型中高一貫教育校における連携型中学校の拡大

- 揖斐川町で実施している連携型中高一貫教育において、これまでは、連携中学校は、揖斐川中学校と北和中学校の2校であったが、揖斐川町教育委員会からの要望等を踏まえ、町村合併により揖斐川町立中学校となっていた谷汲中学校と坂内中学校を加え、連携中学校を4校とした。

第二次選抜における学力検査の変更

- 第二次選抜において実施する学力検査を、これまでは、各高校が、国語、数学、英語、理科、社会の5教科の中から指定していたが、国語、数学、英語の3教科の中から指定することとした。

(3) ふるさと教育関連事業の報告

- 本県では、平成31年3月に策定した岐阜県教育振興基本計画（第3次岐阜県教育ビジョン）において、今後5年間の本県の教育政策の基本的な考え方として、「ふるさとに誇りをもち、『清流の国ぎふ』を担う子どもたちの育成」を掲げた。
- 子どもたちが将来世界で活躍したり、地域の活性化に貢献したりして、「地域社会人」として活躍するためには、児童生徒がふるさとをよく知り、また、自らがふるさとで活躍していく将来像を描けるようにする必要がある。
このため、「ふるさと岐阜」への誇りと愛着をはぐくむふるさと教育の取組を、小・中・高一貫して展開しているところである。
- 特に高校では、新学習指導要領や新大学入試制度も見据え、地域と高校を強く結び付ける活動を通じて、地域の魅力を知り、課題を発見・解決する探究的な学習を推進していく必要がある。そこで、「ふるさと教育」の枠組みの中で、ふるさとを教材とした探究的な学習を全ての高校で実施した。

<ふるさと教育の概要>

高校における「ふるさと教育」の推進		～小・中・高一貫した「ふるさと教育」⇔地域の魅力を知り、課題を発見・解決を推進～	
<p>現状</p> <p>専門高校</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域の産業界と深い結びつき ✓ 「清流の国ぎふ」の恵みを専門高校ならではの視点で活用した「ふるさと教育」を展開 【例】<岐阜農林高>「まくわうり」の地域産業化へ向けた研究 <ul style="list-style-type: none"> ○ 伝統野菜「まくわうり」の特徴を生かした商品開発 ○ 「まくわうりアイス」を過去4年間で2万個販売、特許取得(H28.11) ○ 費削減の観点に「まくわうり」を活用する研究 ○ 香りや風味が豊かな「まくわうり」を原料とし、駄の旨味を軽減した、岐阜県の新ブランド魚（あゆ）の観視・研究 <p>活性化が求められる高校（G1・G2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 活性化協議会（高校・市町村・地元産業界等）を立ち上げ、高校活性化のための協議をスタート（H28～） ✓ 地域と高校の具体的な連携活動もスタート 【例】<古城高>飛騨市を学びのフィールドとした課題解決学習 <ul style="list-style-type: none"> ○ 「地域観光」「地域教育」「地域福祉」「地域防災」をテーマとした学習を展開 ○ 古川原での英語観光案内、古城高校生徒による「小学校サイエンス教室」、市内高齢者福祉施設や飛騨吉城特別支援学校との定期交流、飛騨市役所との協働で「防災ハザードマップ」を作成等 <p>普通科高校</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 「ふるさと教育」の方向性が明確な高校と、具体的にどのように取り組むのか、検討が必要な高校に2分化 ✓ 特に、都市部におけるいわゆる中堅進学校では、地域との関係性が弱い場合が多く、取組みが不十分 【例】<大垣北高>地元企業と連携した海外フィールドワーク <ul style="list-style-type: none"> ○ 「国際関係」「国際ビジネス」「環境エネルギー」「国際医療」「比較教育」の5分野から選定し、全ての分野でフィールドワーク ○ 海外（カンボジアやベトナムなど）に派出している地元企業の海外転出担当者による事前講座、東大・名古屋大の研究者による支援等 	<p>今後の関連事業内容・推進体制</p> <p>【新規】地域産業の担い手育成総合戦略事業</p> <p>専門高校と産業界等との連携を通して、「ものづくり」や「食・くらし」を支え、地域の資源（恵み）を活用した取組を進展させ、地域産業を担う専門的職業人を育成</p> <p>岐阜総合学園、岐阜城北、飛立岐阜商業、岐阜工業、岐阜各務野、郡上、武嶽、加茂農林、東濃実業、可児工業（2019年度から2年間）</p> <p>大垣養老、大垣商業、大垣工業、大垣桜、多治見工業、土岐商業、中津商業、中津川工業、益田清風、飛騨高山（2021年度から2年間）</p> <p><取組例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域資源を活用した実践的・体験的な学習を拡充 ・ 産業界の技術力や経営力、地域活性化に取り組み自治体のノウハウを学ぶ ・ 外部施設・設備を活用し、実践的な学びや先進的技術力を育成 ・ 学科横断的な取組を通じて、地域の課題解決に向けて取り組む <p>【継続】地域連携による活力ある高校づくり推進事業</p> <p>生徒数の動向から活性化が求められる高校について、学校と地域を強く結びつける活動を通じて、地域の魅力を知り、課題を発見・解決する学習を推進</p> <p>◆グループ1（10校）</p> <p>不破、郡上北、八百津、東濃、瑞浪、土岐紅鏡、恵那南、坂下、高山工業、飛騨神岡</p> <p>⇒ 2016（H28）年度からの3年間の事業成果を評価した結果、有効性が認められたため、この3年間の取組実績を踏まえ、学校ごとに事業内容や場当たりし継続</p> <p>◆グループ2（9校）</p> <p>山原、掛鈴、池田、海津明誠、関有知、恵那農業、中津商業、中津川工業、古城</p> <p>⇒ 事業継続：専門高校3校：2017（H29）年度～</p> <p>⇒ 専門高校3校：2018（H30）年度～</p> <p>【新規】地域共創フラッグシップハイスクール事業</p> <p>選抜性の高い大学への進学が多い高校（12校）において、地域課題解決型の探究的な学習を推進するため、SGH（スーパーグローバルハイスクール）やFSH（国際教育フラッグシップハイスクール）指定校に加えて、未指定校を新たに指定</p> <p>岐阜北、長良、加納、大垣北、可児</p> <p><取組例> 地域の産業界や海外展開する企業との連携による体験的活動 等</p> <p>【新規】地域課題探究型学習推進事業</p> <p>いわゆる中堅進学校等（13校）に協議会を設置し、関連する自治体、高等教育機関や企業等との協働により、地域の魅力を知り、課題を発見・解決する学習を推進</p> <p>羽島北、各務原、各務原西、本巣松原、羽島、大垣南、大垣西、武嶽、郡上、加茂、多治見、中津、益田清風</p> <p><取組例> 自治体や大学、企業から出された課題を、高校生がブレインとなり、協働して解決策を提案・実施 等</p>	<p>協働体制</p> <p>地域の担い手育成協議会</p> <p>県地方産業教育審議会</p> <p>協働体制</p> <p>活性化協議会</p> <p>学校運営協議会（コミュニティスクール）</p> <p>※G1の活性化協議会は学校運営協議会に併設し（併設に応じて、学校運営協議会にオブザーバー委員を追加）</p> <p>協働体制</p> <p>SGH、SSH、FSH連携体制</p> <p>地域探究学習推進協議会</p>	<p>高校の特色に応じた「ふるさと教育」をすべての県立高校で展開</p> <p>19校 19名</p> <p>「キャリアプランナー」を配置し、地元企業との連携・調整、求人開拓等</p>
<p>【新規】ICT環境整備事業 ⇨ 地域の魅力を知り、課題を発見・解決する「ふるさと教育」の基盤となる学習環境を表現するため、県立高校の教室へICT環境を整備</p>			
<p>【拡充（義務教育一貫校）「清流の国ぎふ・ふるさと魅力体験事業」 ⇨ 校外研修で、ふるさと岐阜の自然・歴史・文化・産業等を学べる施設を見学・体験（63校中21校予定）</p> <p>※ 初任者研修においても、「清流の国ぎふ」の魅力を知る実地プログラムを実施</p>			

■ 地域とともに活性化する魅力ある高校

【関連事業】地域連携による活力ある高校づくり推進事業

- 地域連携による活力ある高校づくりの推進に取り組んでいる19校は、地元市町や企業関係者などで構成された協議会から、各地域の特性等を高校活性化に生かす様々な提案を受け、地域と一体となった活力ある高校づくりに関する取組を進めている。
- 令和元年度は、こうした取組を学校ごとにさらに発展させ、子どもたちの将来の進路実現に向けた取組が実現するよう、学校と地域が協働して学校の運営に取り組む体制として、19校全てをコミュニティ・スクールとし、地域連携による活力ある高校づくりを強化した。
- 令和元年度の各校の取組は以下のとおりである。

なお、平成29年度及び平成30年度から本事業を実施しているグループ2の9校は、これまでの取組を総括した報告とした。

<グループ1>

各校のまとめにおける各印は以下を表す。
※は学校運営協議会等で出された外部からの意見 ◇は今後の方向性

不破高校 第1次選抜出願者数[変更後]／入学定員 H28:89／120 → H29:120／120 → H30:118／120 → H31:107／120 → R2:89／120	
観点①	魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
○企業実習や高大連携による取組など地域と連携したキャリア教育を推進 ○コミュニケーション能力育成のための演劇表現ワークショップ等を実施 ※地域連携を活かし、学校だけで教育するのではなく、地域で教育することが必要である。 ◇生徒の就職につなげられるよう就職実績のある企業を中心に企業見学会を実施	
観点②	地域と連携した事業
○地元保育園や老人ホーム等における実習や地域のボランティア活動への参加 ※不破高校の生徒が、宮代地区のいくつもの行事に参加し活躍してくれており、感謝している。 ◇より多くの生徒が活動に参加できるための工夫や、ボランティア活動の内容を精選	
地元自治体等からの主な支援：スクールバス「不破高スクール線」運行の補助	
観点③	中学生や地域への広報、情報発信
○高校見学会や近隣住民に向けた学校公開の開催、中学校での高校説明会の実施 ※例年以上の参加者があり、不破高校の教育内容についての理解が進んだ。 ◇地域や地元中学校と連携を図りながら、更なるPR方法について検討	

<グループ1>

各校のまとめにおける各印は以下を表す。
※は学校運営協議会等が出された外部からの意見 ◇は今後の方向性

郡上北高校 第1次選抜出願者数[変更後]/入学定員 H28:90/120 → H29:96/120 → H30:104/120 → H31:76/120 → R2:103/120	
観点①	魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策 ○郡上市等との連携による「郡上未来塾」やインターンシップ、企業ガイダンスを実施 ○「Good 郡上プロジェクト」や「クエストエデュケーション」により地域課題探究学習を推進 ※Good 郡上プロジェクトの入賞、クエストエデュケーションの優秀賞受賞は大きな成果である。 ◇来年度から地域連携を生かし2年次でデュアルシステムによる企業実習を開始
観点②	地域と連携した事業 ○「奥美濃力レーで町おこし隊」や「公民館応援隊」による地域連携を展開 ※「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰を受けたことは地元の誇りである。 ◇無理なく地域で活躍する達成感や充実感をもつことができる活動を継続 地元自治体等からの主な支援：地域と一体となった各種行事によりキャリア教育を支援
観点③	中学生や地域への広報、情報発信 ○校報「北高通信」の配布やホームページ「北高NOW」等による地域への情報発信 ※生徒が地域で活躍し評価されている様子や生徒のいきいきとした姿が伝わってきた。 ◇郡上北高地域とともに発展（KCD）プロジェクトの4つの柱の1つとして継続実施
八百津高校 第1次選抜出願者数[変更後]/入学定員 H28:109/120 → H29:128/120 → H30:123/120 → H31:134/120 → R2:112/120	
観点①	魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策 ○デュアルシステムによる企業実習を実施 ○1年生チャレンジ講座（インターンシップ）を実施 ※開始当初と比べ実習生の態度や職業観により変化がみられ、実習の効果を実感している。 ◇1年生全員参加のインターンシップから地元企業との連携による企業実習への系統化
観点②	地域と連携した事業 ○地元の新丸山ダム建設現場の見学や地域ゆかりの杉原千畝氏に係る人道教育を実施 ※地域に関連した学びを、教科の学びの一環として、地域等と連携しながら進められている。 ◇杉原千畝氏に係る人道教育など地域資源を活用した学びを小中高等学校で一貫して継続・発展 地元自治体等からの主な支援：中学生や地域への広報・情報発信、部活動費の援助
観点③	中学生や地域への広報、情報発信 ○連携中学校への校報「いま八百津高校では」の配布やデュアル発表会等による情報発信 ※校報「いま八百津高校では」の発行数が増えるなど、広報活動の充実が図られている。 ◇次年度以降も継続して校報の充実を図るとともに、ホームページによる広報にも重点を置き実施
東濃高校 第1次選抜出願者数[変更後]/入学定員 H28:121/120 → H29:123/120 → H30:122/120 → H31:128/120 → R2:110/120	
観点①	魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策 ○地域課題解決型学習に関する学校設定科目を多数開講 ○御嵩町等との連携による地域をフィールドとした地域課題探究活動を展開 ※発表は非常に興味深く実践可能なものもあった。重要な取組なので今後も継続してほしい。 ◇生徒が「何ができるようになるか」（育てたい生徒像）を見据え、今後も教育課程を検討
観点②	地域と連携した事業 ○御嵩町環境モデル都市交流体験プロジェクト事業への参加 ※「環境・エネルギー」「高齢化」「地域活性化」について学習したことを全校で共有できるとよい。 ◇研修内容を探究的な学習と結びつけ、全校生徒の共通課題として取り組めるよう検討 地元自治体等からの主な支援：防災リーダー養成講座の補助、キャリア教育プログラム等への支援
観点③	中学生や地域への広報、情報発信 ○校報「東濃高」の配布とオープンキャンパスや一日入学等によるPR ※校報は学校の様子がよく分かり、興味・関心が高まるので、今後も継続するとよい。 ◇可茂地区内の中学校等と連携を図りながら、継続してPR活動を展開

<グループ1>

瑞浪高校 第1次選抜出願者数[変更後]/入学定員 H28:125/160 → H29:166/160 → H30:154/160 → H31:141/140 → R2:137/140	
観点①	魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
<p>○瑞浪市等と連携した「地域連携プロジェクト学習」を開始</p> <p>○生徒の多様な進路を支援する「瑞高塾」やインターンシップを実施</p> <p>※「地域連携プロジェクト学習」は瑞浪高校の目玉として発展することが期待できる。</p> <p>◇「高校生しごとラボ」と協働し「地域連携プロジェクト学習」を年次進行で拡大実施</p>	
観点②	地域と連携した事業
<p>○瑞浪市コミュニティバスの高校敷地内への伸長・運行</p> <p>※瑞浪駅から通学する生徒の安全確保にも効果を上げており、瑞浪高校の特色の1つになった。</p> <p>◇コミュニティバスの運行以外にも瑞浪市との連携を継続・強化</p> <p>地元自治体等からの主な支援：市役所ロビーに広報コーナーを設置、コミュニティバスの運行</p>	
観点③	中学生や地域への広報、情報発信
<p>○パンフレットやチラシ、DVD等や卒業制作実践発表会による情報発信</p> <p>※今年のパンフレットは分かりやすかった。継続して高校の魅力を発信することが必要である。</p> <p>◇卒業制作・実践活動発表会に地元中学生を招待するなど高校の学びについて継続して発信</p>	
土岐紅陵高校 第1次選抜出願者数[変更後]/入学定員 H28:100/120 → H29:133/120 → H30:110/120 → H31:99/105 → R2:92/105	
観点①	魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
<p>○次年度に開始する地域課題探究学習に向けた「地域連携社会人講話」等を開催</p> <p>○地元商工会議所との連携による様々なキャリア教育を展開</p> <p>※地域活性化の活動内容についての講話や史跡見学を通して土岐市の魅力を知ることができた。</p> <p>◇町の活性化に携わる団体と連携し地域課題探究学習の実施に向けた計画を推進</p>	
観点②	地域と連携した事業
<p>○「福祉学び塾」や「夏休みマンガ講座」など町おこしイベントへの参画</p> <p>※生徒が授業等で習得した知識、技術を、実際に地域の方々に提供するよい機会である。</p> <p>◇福祉など学校での学びを生かした地域連携を今後も継続</p> <p>地元自治体等からの主な支援：講演会の講師や探究学習のサポーターを紹介</p>	
観点③	中学生や地域への広報、情報発信
<p>○地元中学校への出前授業や中学生1日体験入学、オープンスクールの開催等による情報発信</p> <p>※中学生1日体験入学において、生徒による部活動説明会を実施したことはよかった。</p> <p>◇オープンスクールや地元中学校への出前授業に加え、課題解決学習発表会を実施</p>	
恵那南高校 第1次選抜出願者数[変更後]/入学定員 H28:70/120 → H29:53/80 → H30:57/80 → H31:69/60 → R2:48/60	
観点①	魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
<p>○地元企業、恵那市との三者連携による栗を素材にした「6次産業学習」を実施</p> <p>○地元小・中・高・特別支援学校による学校種間連携「浪漫学園」を展開</p> <p>※先生方の支援等により、生徒一人一人の夢が実現していることは恵那南高校のよさの1つである。</p> <p>◇6次産業学習の実施に向け、新たに三者連携を結び今後も継続して実施</p>	
観点②	地域と連携した事業
<p>○大河ドラマ「麒麟がくる」にちなんで「明智町観光パンフレット英語版」を作成</p> <p>※素晴らしい出来栄の観光パンフレットを日本大正村理事長に贈呈できてよかった。</p> <p>◇今年度でこの取組は完結するが、今後も恵那市との連携を強化</p> <p>地元自治体等からの主な支援：6次産業学習におけるスクールバス支援、明知鉄道利用者への補助</p>	
観点③	中学生や地域への広報、情報発信
<p>○校報「恵那南だより」の発行及び「産社・総合学習発表会」によるPR</p> <p>※産社・総合学習発表会は、工夫が見られとても分かりやすい発表となってきている。</p> <p>◇今後も恵那市南部の5中学の2年生を招待し恵那南高校の学習内容を発信</p>	

<グループ1>

各校のまとめにおける各印は以下を表す。
※は学校運営協議会等が出された外部からの意見 ◇は今後の方向性

坂下高校 第1次選抜出願者数[変更後]/入学定員 H28:94/120 → H29:54/120 → H30:47/90 → H31:59/90 → R2:44/90	
観点①	魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
<p>○地域の異世代間の交流を図る「咲明日（さかした）ステーション」を展開</p> <p>○地域の拠点となる高校として学校祭「深山樹祭」の一般公開やふれあい茶道教室を実施 ※孤立しがちな家庭の児童や高齢者に対し、福祉や保育の学びを実践する活動となっている。 ◇「地域に必要な専門職を輩出する高校」としての活動を継続して実施</p>	
観点②	地域と連携した事業
<p>○地域行事「桜の湖還暦マラソン・桜まつり」への参加など一人1ボランティアを実施 ※ボランティア活動を通じた異世代間の交流は人間関係形成能力を育成する機会となっている。 ◇総合的な探究の時間を活用することなどでボランティア活動を拡大</p> <p>地元自治体等からの主な支援：地元企業県学会の援助、そば打ち体験の指導</p>	
観点③	中学生や地域への広報、情報発信
<p>○Facebookでの発信や校報「坂高だより」の配布、学習成果発表会によるPR ※準備にかけた努力が伝わり、生徒の自信と周囲への感謝が感じられる学習成果発表会だった。 ◇FacebookやホームページによるPR方法についてさらに検討</p>	
高山工業高校 第1次選抜出願者数[変更後]/入学定員 H28:164/160 → H29:140/160 → H30:127/160 → H31:148/160 → R2:92/136	
観点①	魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
<p>○製品の企画から販売までを行うサテライトキャンパス「飛驒の匠工房」を実施</p> <p>○高山市との協働による子ども夢創造事業「科学ひろば」でものづくり体験教室を展開 ※小中学生との交流事業はお互いが成長できるので、このような機会を増やしてほしい。 ◇部活動との両立や働き方改革の観点から活動内容の精選などについても検討を実施</p>	
観点②	地域と連携した事業
<p>○高山市の姉妹都市デンバーに寄贈した高山祭の屋台レプリカの修繕を通じた交流 ※学習した技能を地域や国際交流に役立てることで生徒の視野も広がったのではないかと。 ◇デンバーで行われる修繕屋台の曳きまわしに生徒が参加しプロジェクトが達成できるよう計画</p> <p>地元自治体等からの主な支援：高山デンバー文化交流に係る渡航費等</p>	
観点③	中学生や地域への広報、情報発信
<p>○学校PR動画を加工してホームページで中学生等に情報発信 ※来年度の入学生に対し再びアンケートを実施し、以前と比較してPR効果を検証してはどうか。 ◇PR動画の内容やその効果を検証し、動画内容の更新について検討を実施</p>	
飛驒神岡高校 第1次選抜出願者数[変更後]/入学定員 H28:77/80 → H29:82/80 → H30:58/80 → H31:64/80 → R2:55/80	
観点①	魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
<p>○道の駅「宙ドーム」の音声ガイド作成など地域を舞台に探究学習を展開</p> <p>○東京大学宇宙線研究所「KAGRA」の見学など地域資源を活用した学びを展開 ※カミオカ・ラボが完成し、高校生のボランティアによって盛り上げてもらいたい。 ◇地域の魅力を発信する商品の開発など地域課題探究型学習を充実</p>	
観点②	地域と連携した事業
<p>○飛驒市のまちづくり事業での審査員や納涼祭での演奏などを通じた地域交流 ※生徒の思いも汲んだ連携活動が進められるよう、意見交流をしていきたい。 ◇地域貢献活動によって地域の担い手を育成する高校の在り方を研究</p> <p>地元自治体等からの主な支援：地域情報誌などによる広報活動の援助、KAGRA見学バスの補助</p>	
観点③	中学生や地域への広報、情報発信
<p>○学校を公開する「OPEN！飛驒神」や小学生親子高校体験授業などによる情報発信 ※生徒自らが運営する形態へと発展し、誇りと自信を持って学校を紹介する場となっている。 ◇他校にはない特色ある企画として「OPEN！飛驒神」などを継続して実施</p>	

<グループ2>

各校のまとめにおける各印は以下を表す。
※ は活性化協議会等が出された外部からの意見

山県高校	
第1次選抜出願者数[変更後]／入学定員 H29:101/160 → H30:119/160 → H31:93/120 → R2:77/120	
観点①	地域と連携した魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
<p>○工業類型選択者全員が参加するデュアルシステム（企業実習）を開始 ※単位制導入により、2年次の類型選択に向けたガイダンスを丁寧に行うとよい。 ※地元企業19社の協力が得られて、工業類型選択者22名全員で実施できることは大変喜ばしい。</p> <p>○ものづくり講座実施に向け「国際たくみアカデミー」などとの連携を模索 ※キャリア教育を行っていくうえで、高校と大学との連携も強化できるとよい。 ※東海職業能力開発大学校への生徒の移動方法などの検討が必要である。</p>	
地元市町からの主な支援：デュアルシステムによる企業実習の協力	
観点②	中学生や地域への広報、情報発信
<p>○学校ホームページや中学校訪問により新たに始まる類型での学びを発信 ※工業や福祉についても学べることを、中学校だけでなく地域にも大きくアピールするとよい。 ※類型についての情報発信により、福祉を学ぶために山県高校を希望する生徒がいると聞いた。</p>	
3年間の成果または評価	
<p>◇一昨年度までは出願者数が安定したものの、その後は地区の中学卒業生数の減少の影響を受けた。 ◇単位制普通科に改編され、地元企業の協力により、デュアルシステム（企業実習）が始まった。 ◇工業類型や福祉類型への進学を意識し進路選択を考える地元中学生が増えてきた。 ◇今後は、新たな山県高校の5つの類型の取組などを保護者や地域にアピールするとよい。</p>	
今後、推進していきたい取組や学校としてのビジョン	
<p>○地元企業、関係機関等との連携による企業実習や研修講座などの体験型学習を拡大 ・来年度スタートする工業類型や福祉類型において地元企業等との連携による教育体制を構築</p> <p>○中学生に対する生徒の目線による広報活動方法の検討を開始 ・生徒によるホームページの記事の作成など生徒目線による学校のアピール方法を検討</p>	

揖斐高校	
第1次選抜出願者数[変更後]／入学定員 H29:136/160 → H30:160/160 → H31:137/120 → R2:117/120	
観点①	地域と連携した魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
<p>○地元企業や社会福祉施設の協力によるデュアル実習の充実 ※揖斐高校にとって、デュアル実習は魅力的な実践であり、参加した生徒の成長への評価も高い。 ※デュアル実習に参加する生徒と受け入れ企業がバランスよく増えるとよい。</p> <p>○揖斐ジモト大学や地域医療講座への参加 ※揖斐ジモト大学は、地域と学校が連携し、地元の大人と地元で学ぶ象徴的な取組である。 ※地域医療講座は、参加した生徒が地域医療に従事するなど生徒のキャリア意識を強めている。</p>	
地元市町からの主な支援：学習成果発表会の会場費補助、地域医療講座の移動費補助等	
観点②	中学生や地域への広報、情報発信
<p>○連携中学生に対し学習成果発表会への招待など揖斐高校の魅力を早期に発信 ※進路決定前の中学生に意識を持たせることは重要であり、これまでの連携の成果がみられた。 ※多様な連携活動が展開され内容も充実していた。中学生の他、その保護者へもPRするとよい。</p>	
3年間の成果または評価	
<p>◇地区の中学卒業生数が減少する中で、事業開始後に出願者数が増加し、その後も安定している。 ◇「デュアル実習」は、生徒の自己実現に向けた意欲と職業人としての意識を向上させている。 ◇「揖斐ジモト大学」は、学校と地域が連携した取組であり、今後の発展に大きく期待したい。 ◇学習の成果を振り返り発表する「学習成果発表会」の公開は、重要な広報活動の場になった。</p>	
今後、推進していきたい取組や学校としてのビジョン	
<p>○学習成果発表会により連携中学生等に対し揖斐高の学びの発信を継続・発展 ・連携型中学校とだけでなく地域の小学校から高校まで繋がる連携教育活動を強化</p> <p>○デュアル実習、地域医療講座、揖斐ジモト大学などによるキャリア教育の推進 ・デュアル実習の連携企業の拡充や、地域医療講座及び揖斐ジモト大学への参加者を増加</p>	

<グループ2>

各校のまとめにおける各印は以下を表す。
※ は活性化協議会等で出された外部からの意見

池田高校 第1次選拔出願者数[変更後]/入学定員 H29:151/160 → H30:182/160 → H31:149/160 → R2:146/140	
観点①	地域と連携した魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
<p>○ユネスコスクールとして、環境教育、福祉教育、国際教育を推進 ※生徒の希望者が多い福祉、医療、保育分野等で活躍できる人材育成を推進するとよい。 ※環境教育について、あらゆるボランティア活動等を通して全員が取り組めるとよい。</p> <p>○池田町との連携によるキャリア教育を展開 ※池田未来会議に参加し、10年後の池田町を支える代表として意見を出すことができた。 ※新たに始められた探究の学びは、池田町の魅力を探る活動で今後の発展が楽しみである。</p>	
地元市町からの主な支援：各種検定等の補助、海外研修費の補助	
観点②	中学生や地域への広報、情報発信
<p>○高校説明会や中学校出前授業の実施と学校PRチラシの作成 ※中学からの依頼による高校説明会は年々増加しており、学校の教育内容の理解が進んでいる。 ※PRパンフレットも春と秋の2回、地域の中学生全員に配布することで効果的に広報された。</p>	
3年間の成果または評価	
<p>◇地区の中学卒業生数が減少する中で、事業開始後に出願者数が増加し、その後も安定している。 ◇協議会を通じ、池田町と連携を深め、福祉教育と国際教育の充実を図ることができた。 ◇池田町との連携に留まらず、揖斐郡の小中高特別支援学校と交流することで相乗効果が期待できる。 ◇生徒が地域のことをより学ぶことができる教育活動を具現化できるとよい。</p>	
今後、推進していきたい取組や学校としてのビジョン	
<p>○ユネスコスクールとしての活動を通し生徒の活躍の場を充実 ・福祉、医療、保育分野などでの活躍を目指す生徒一人一人の進路目標を実現</p> <p>○池田町と連携したキャリア教育を展開 ・池田町と連携した「キャリア教育プログラム」により生徒が主体的に進路選択できる能力を育成</p>	

海津明誠高校 第1次選拔出願者数[変更後]/入学定員 H29:182/200 → H30:188/200 → H31:191/200 → R2:128/200	
観点①	地域と連携した魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
<p>○高校生まちづくりサミットへの参加及び開催 ※海津市文化センターにて初開催した高校生サミットを通し、大変有意義な学びを展開できた。 ※いろいろな機会に多くの人と交流し地域のことについて学ぶことは大切なことである。</p> <p>○地元企業との連携による商品開発や高齢者への配食サービス等の地域課題探究型学習を実施 ※生徒たちが経験を深めたことに加え、連携企業にとっても有意義な活動になった。 ※「まちゼミ」などの地域の活動で、生徒たちが活躍してくれるのは嬉しいことである。</p>	
地元市町からの主な支援：学習成果発表会の会場費補助	
観点②	中学生や地域への広報、情報発信
<p>○学習成果発表会への中学生の招待など海津明誠高校の魅力を早期に発信 ※発表会のプレゼンは、パフォーマンスなどに工夫がみられ中学生が憧れをもてる発表であった。 ※部活動や総合的な学習での取組についても発表があるとよい。</p>	
3年間の成果または評価	
<p>◇昨年度までは出願者数が安定したものの、今年度は地区の中学卒業生数の減少の影響を受けた。 ◇地元の小中学校の教員との合同による教科会議や研修会の実施により、高校への理解が進んだ。 ◇高校生サミットin海津の開催等により、鯖江市JK課など他県の高校生との連携が図られた。 ◇学習成果発表会の公開は、中学生にとって進路の目標づくりのよい機会となっている。</p>	
今後、推進していきたい取組や学校としてのビジョン	

- 地元中学校への高校説明会や学習成果発表会への中学生の公開を継続・発展
 - ・情報処理科、生活福祉科の学習内容、普通科の進路指導などの積極的なアピール活動を強化
- 海津市や市商工会等との協働による地域を舞台とした学習を展開
 - ・市商工会主催「まちゼミ」への参加や高齢者への配膳サービス実習など地域での学習を継続

<グループ2>

関有知高校 第1次選拔出願者数[変更後]/入学定員 H29:153/160 → H30:163/160 → H31:135/160 → R2:135/140	
観点①	地域と連携した魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
<p>○関市商工会議所等と連携したキャリア教育を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ※地域連携により地域産業の魅力や将来性について見識を深めることができたのは素晴らしい。 ※進学希望者も含め、地域での社会貢献ができるような人材育成を望む。 <p>○生活福祉科の特徴を生かした地域で活躍するスペシャリストの育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ※認知症サポーター(オレンジリング)を習得することで家庭や地域での活躍が期待できる。 ※今後はより多くの実習を通じ、知識と技術の向上につなげていって欲しい。 	
観点②	中学生や地域への広報、情報発信
<p>○活力ある学校をPRするポスターの作成とホームページの一新による情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ※鉄道路線でのPRポスターの掲載は、認知度向上とイメージアップにつながった。 ※ホームページは情報を発信する大切なツールであり、今後も更新に努めてほしい。 	
3年間の成果または評価	
<p>◇地区の中学卒業生数が減少する中で、事業開始後に出願者数が増加し、その後も安定している。</p> <p>◇関市をはじめ商工会議所や地元企業、大学等と関係を深め、キャリア教育を展開できた。</p> <p>◇多くの生徒が認知症サポーター(オレンジリング)を取得し、現場実習を体験することができた。</p> <p>◇PRポスターなどの広報活動により中学生だけでなく地域の方への認知度が向上した。</p>	
今後、推進していきたい取組や学校としてのビジョン	
<p>○生活福祉科で実施している活動の継続・発展など地域と連携した取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月のボランティア活動や、地元特別養護老人ホームでの実習など地域と連携した学びを充実 ・地域との連携によるふるさと教育の推進を目指しユネスコスクールに申請 ・関ジモト大学への参加を推進 	

恵那農業高校 第1次選拔出願者数[変更後]/入学定員 H30:154/160 → H31:146/160 → R2:145/160	
観点①	地域と連携した魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
<p>○地元企業、恵那市との三者協定による「花咲かみつばちプロジェクト」を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ※循環型農業の取組で時代にマッチしており、また、大学レベルでの研究内容でもある。 ※持続可能な農業を目指した取組を、市と連携して実施してもらえることはありがたい。 <p>○恵那市との連携による「え～な地元産!地産地消推進プロジェクト」を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ※市との協働による「やわらか恵那鶏めし」の販売や地元食材を使った給食献立の開発に感謝する。 ※小学校への食育出前講座などで高校生が教師役になって指導することはよい取組である。 	
地元市町からの主な支援: 農業クラブ全国大会への旅費援助	
観点②	中学生や地域への広報、情報発信
<p>○中学校出前講座での生徒による学校紹介やホームページの充実などによる多様な広報を展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ※体験入学やオープンスクールなどたくさんの情報が提供されており内容も濃い。 ※高校の学習内容が常時展示してあるようなスペースがあるとよい。 	
3年間の成果または評価	
<p>◇地区の中学卒業生数が大きく減少する中で、出願者数が安定している。</p> <p>◇花咲かみつばちプロジェクトで、農業クラブ全国大会プロジェクト発表会で優秀賞を受賞した。</p> <p>◇え～な地元産!地産地消推進プロジェクトで、地産地消優良活動表彰東海農政局長賞を受賞した。</p> <p>◇世界らん展ディスプレイ部門ショーディスプレイクラスで最優秀賞を受賞した。</p>	
今後、推進していきたい取組や学校としてのビジョン	

- 地域との連携による「花咲かみつばちプロジェクト」等の継続・発展
 - ・恵那市や関係団体、企業と連携し、各学科の学習内容での研究を実施
- 恵那地域の農業及び農業関連産業に対する理解を推進
 - ・地元小学生などへの広報活動を進め、地域農業や農業高校への理解を推進

<グループ2>

各校のまとめにおける各印は以下を表す。
※は活性化協議会等が出された外部からの意見

中津商業高校 第1次選拔出願者数[変更後]／入学定員 H30:175/160 → H31:150/160 → R2:142/140	
観点①	地域と連携した魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
<p>○中山道観光ガイド作成やふるさと納税返礼品の考案など地域連携による学びを推進 ※同じ発想ではモノ作りをすることはできない。学生と企業間での交流が図られるとよい。 ※今年度は、深く太く中津商業高校と地域との関わりができています。</p> <p>○タイの地元企業現地法人の工場見学や高校生との交流等による国際的商業人を育成 ※多言語の重要性は痛感するところであり、より研修内容を充実できるとよい。 ※ホームステイをすることで生活を直に感じることででき多くのことを学べるのではないかと。</p>	
観点②	中学生や地域への広報、情報発信
<p>○地元中学生への生徒による出前講座やSNSの積極的な活用による広報 ※出前講座は、商業の仕組みを中学生にも伝えられるのはいいい取組であると感じる。 ※中学の教員が、中津商業高校の特色を理解できるのではありがたい。</p>	
3年間の成果または評価	
<p>◇地区の中学卒業生数が大きく減少する中で、出願者数が安定している。 ◇市の行政や様々な施設等との連携による学びが、少しずつではあるが深まってきた。 ◇市職員や連携企業の方に参加いただき、課題研究の発表会を新たに始められた。 ◇自分たちが提案した内容が形になることで、充実感が得られる貴重な学びを体験している。</p>	
今後、推進していきたい取組や学校としてのビジョン	
<p>○商品の開発や観光の提案など地域と連携した商業教育を継続 ・地元企業との連携によるオリジナル商品の提案や地域観光に係る多言語対応アプリの制作</p> <p>○小学校でのプログラミング教育や中学生への出前講座の充実 ・小学校の教員や児童を対象としたプログラミング講座や中学生への出前講座の実施</p>	

中津川工業高校 第1次選拔出願者数[変更後]／入学定員 H30:139/160 → H31:151/160 → R2:157/160	
観点①	地域と連携した魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策
<p>○地元企業の見学や企業と連携した「金型工作」の研究などによるキャリア教育を推進 ※ディスカッション能力の育成など企業が重視している教育が実践されている。 ※インターンシップや企業見学だけでなく、企業側から出前授業のような講座を開きたい。</p> <p>○テクノボランティアや恵那市こどもフェスタへの参加など地域に根差した教育活動を展開 ※地域と連携した多くの事業を行うことで、地域とのつながりや愛着が育まれることにつながる。 ※建築工学部が中津川社会福祉施設に机の天板を再利用した麻雀牌を寄贈し大変感謝された。</p>	
観点②	中学生や地域への広報、情報発信
<p>○学校紹介ビデオの作成により学科の学びや学校行事、部活動等についての広報活動を展開 ※紙媒体は印象に残りにくい、映像は生徒にわかりやすく訴えることができるとよい。 ※女子生徒への宣伝なども含め広報活動の充実が図られている。</p>	
3年間の成果または評価	
<p>◇地区の中学卒業生数が大きく減少する中で、事業開始後は出願者数が増加した。 ◇地元企業等の見学や企業と連携した研究の推進などによるキャリア教育が展開された。 ◇中学校への「出前授業」により、学科での学びの内容などを紹介することができた。 ◇女子トイレ増設や学校紹介ビデオの作成などの広報により中学生に高校の魅力が浸透した。</p>	
今後、推進していきたい取組や学校としてのビジョン	

- 「出前授業」等の体験型授業を通して「ものづくり」が好きな生徒を育成
 - ・就業体験、企業見学、企業と連携した研究、出前授業の実施などを推進し工業人材を育成
- 学校紹介ビデオの効果的な活用による広報活動を展開
 - ・今年度作成した学校紹介ビデオの効果的な活用について検討し広報活動を展開

<グループ2>

吉城高校		第1次選抜出願者数[変更後]／入学定員 H29:110/160 → H30:110/120 → H31:94/120 → R2:107/120
観点①	地域と連携した魅力ある高校づくりへの具体的な活性化策	
○学校設定教科「ESD」を設置し地域との連携による学びを強化 ※地域に開かれた学校としての実践活動により、生徒一人一人が達成感をもつことができた。 ※これまでの活動の成果として、地域からの協力が常態化するなど連携が定着してきた。		
○「地域の大人と語ろう会」の実施などキャリア教育において地域人材を活用 ※仕事に関することから各々の経験や価値観に関することまで幅広い対話もてたことはよい。 ※自分が夢を追いかけている頃の気持ちを思い出して伝えることが参考になったのではないかな。		
地元市町からの主な支援：キャリア教育コーディネーター配置、海外研修費補助等		
観点②	中学生や地域への広報、情報発信	
○YCKプロジェクト報告会や柏葉祭（文化祭）、写真部による情報発信 ※これらの活動により吉城高校の魅力を感じ、「吉高」を目指す生徒が増加することと思う。 ※ESD地域課題探究「飛騨みんなの博覧会」は、柏葉祭で実施するとよい。		
3年間の成果または評価		
◇地区の中学卒業生数が大きく減少する中で、今年度、出願者数が増加に転じた。 ◇単位制への改編により、学校設定教科「ESD」が設置され地域との連携による学びが強化された。 ◇地域課題解決型キャリア教育「吉高地域キラメキ（YCK）プロジェクト」が深化・発展した。 ◇校報「吉高ニュース」やホームページ等により、地域等に様々な情報を速やかに伝えている。		
今後、推進していきたい取組や学校としてのビジョン		
○新たな学校設定科目の新設などYCKプロジェクトの更なる推進 ・今年度から設置した学校設定科目「地域課題探究」の発展及び「地域PBL」の新たな設置		
○飛騨市との協働により地域で学ぶ環境を整備し探究的な学びを充実 ・地域と連携・協働を更に強化し、地域の人材や資源を活用した探究的な学びを展開		

■ グローバルな視点で課題を探究する高校

- 【関連事業】 スーパーサイエンスハイスクール事業（SSH）
 スーパーグローバルハイスクール事業（県指定SGH）
 地域共創フラッグシップハイスクール事業（FRH）
 理数教育フラッグシップハイスクール事業（FSH）

- 地域の課題をグローバルな視点で捉え、課題を発見・解決する力を身に付け、国際舞台や地域で活躍できる人材を育成するため、選抜性の高い大学への進学希望者が多い高校等を指定し、大学や企業、海外の関係機関等と連携した質の高い教育カリキュラム等の研究・開発などを行った。令和元年度の各校の主な取組は以下のとおりである。

岐阜高校
主な取組
<p>○環境科学を含む理数系分野において、専門的で高度な実験実習や研究を実施 長良川のアユの冷水病に関する研究や、地域に生息する希少種カスミサンショウウオの保護活動などを行い、全国規模の研究発表大会で文部科学大臣賞や環境大臣賞を受賞した。</p> <p>○「科学の甲子園」全国大会総合優勝を目指し、科学的な探究力を強化 科学の複数分野にわたる競技に協働して取り組む各種学習会を実施した。この学習会には県内の高校6校と県外の高校7校から約100人の高校生が参加し、切磋琢磨した。</p>
成果と課題
<p>・各種体験講座の実施、各種大会・コンクールへの参加等によって、数多くの生徒が資質を磨き研鑽することができた。今後も生徒の学習ニーズに応える教育活動を一層充実させたい。</p>
外部の方からの意見
<p>・生徒個別のより高度な学習ニーズに対応するために単位制に改編し、学校独自の多様な事業を展開することで、質の高い授業や進路学習の機会を与えてくれている。</p>

岐阜北高校
主な取組
<p>○岐阜市の現状と課題についてフィールドワーク等を通じた探究学習を実施 岐阜市役所の職員から、「岐阜市の現状と課題」に関する講義を受け、グループでフィールドワークを行い、活性化案をまとめ、発表会を実施した。</p> <p>○発展途上国への開発援助について、探究学習の成果を名古屋大学大学院にて発表 教育、経済、政治、法律から選んだテーマに基づいて探究学習を行い、名古屋大学で国際理解教育プログラムに参加している留学生に、英語でプレゼンテーションを実施した。</p>
成果と課題
<p>・職員研修会を実施し、探究学習を円滑に進めるための効果的な指導方法について研修した。今後も生徒の進路実現に役立つ探究学習について研究を深めたい。</p>
外部の方からの意見
<p>・1つの課題の解決に向けて、生徒と教員がお互い堅苦しくなく、自由にアドバイスや意見を出し合いながら研究を進めている姿が見られてよい。</p>

長良高校
主な取組
<p>○長良高校近郊の地域課題と現状を理解するための探究学習を実施 地域振興のための施策や地域の伝統文化の魅力について、岐阜大学、自治体、民間団体等と連携し、理解を深めグループごとに定めたテーマについて探究学習を進めた。</p> <p>○長良高校近郊の地域課題解決の方策を英語でまとめ、学年全体で発表 長良高校周辺地域のために、高校生として何ができるかをグループごとにまとめ、フィールドワークやグループ交流会で集約したものを英語で発表した。</p>
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・学校近郊の振興のための行政施策や、長く受け継がれている伝統文化の意義について、生活者として理解を深めることができた。
外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・探究する力や課題を発見する力を身に付けて、地域のよさを再発見し、将来は「ふるさと岐阜」に貢献できる生徒が増えることを期待する。

岐山高校
主な取組
<p>○「商店街改造計画」をテーマに柳ヶ瀬商店街を活性化する探究活動を展開 柳ヶ瀬商店街と多くの人々が集まる名古屋の商店街を比較し、実際に訪問するなどして、地域の活性化につながる案を模索する探究活動を行い発表した。</p> <p>○「海津市南濃町の防災と生活の歴史」をテーマに野外実習を実施 海津市南濃町の巨石堰堤、マンボ、羽沢貝塚における観察・実習を通して、正しい自然観を身に付けるとともに、科学的に思考する方法を学んだ。</p>
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・柳ヶ瀬商店街は様々な工夫により活気を取り戻しつつあり、今後も商店街の情報発信が大切だと考えるので、SNSや広告の有効な使い方を探究して、提案したい。
外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちが大変よく取り組んだことが、まとめられたポスターからもよくわかる。地域の歴史を学び、今後の展望にも思いを馳せることは、科学者への第一歩とも考えられる。

加納高校
主な取組
<p>○「10年後の岐阜と私」のレポート作成それをもとにした意見交流を実施 資料やデータに基づいて、10年後の岐阜や地域の姿、またそこに生活している私についてイメージしたレポートを作成し、生徒同士の意見交流も行い発展させた。</p> <p>○岐阜県庁職員から岐阜県の特徴と課題を学び、探究学習を実施 里川振興課から課長を招聘し、「岐阜県の特徴と課題」について理解を深め、課題の見つけ方について、ポスターにまとめ、プレゼンテーションを実施した。</p>
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜県の現状をデータからより深く理解し、グループ交流会を通じて、今より素敵な岐阜県にするためにできることについて具体的な提案をまとめることができた。
外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・将来のライフプランと進学先の大学の関係について、各学年に適した探究活動を、取り組ませたい。

岐阜商業高校
主な取組
<p>○企業や自治体と連携した台湾からの訪日教育旅行の誘致によるインバウンド需要の拡大 岐阜の観光地をフィールドワークする訪日教育旅行プランを立て、台湾の日本観光物産博でPRした結果、来年度2校の訪日が決定した。受入に向けて岐阜の経済効果を研究。</p> <p>○スポーツビジネスを通じて岐阜の経済を活性化するプランを十六銀行に提案 スポーツビジネスのコンサルタントと連携し、FC岐阜のスポンサー企業とスポーツビジネスによる岐阜の経済の活性化について研究し、ビジネスプランを十六銀行に提案した。</p>
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・訪日教育旅行のプランや岐阜の経済の活性化のプランの作成を通して、岐阜の魅力を再確認することができた。また、岐阜の魅力を海外や企業に発信・提案することができた。
外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・実際に台湾から観光客を誘致し、素晴らしい取組である。地元観光業、関係企業、自治体との更なる連携を期待している。

大垣北高校
主な取組
<p>○開発・ビジネス・環境・医療・教育からテーマを設定し探究学習を展開 岐阜県の課題について5領域からリサーチクエスチョンを設定し、生徒が1,500字程度のエッセイにまとめ、その内容について5分間のプレゼンテーションで発表した。</p> <p>○探究学習テーマの実地検証のためベトナム・カンボジアへのフィールドワークを実施 グローバル企業や、現地学校の視察等を実施し、現地で働いている方へのインタビューや学校交流を通じて訪問国と日本を比較し、課題解決の視点を得た。</p>
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・SGHで培ったグローバルな視点を生かしながら、FRHの事業目的である地域課題の解決に向けての探究学習を実施できた。
外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・海外フィールドワークの成果を、全体に還元していく意識が必要である。また、地域資源を活用した体験的な校外学習を充実させる必要がある。

大垣東高校
主な取組
<p>○大学や地域と連携して、ハリヨが安定的に生息できる水系の環境保全について探究 国内では岐阜県と滋賀県にしか生息していない絶滅危惧種の魚「ハリヨ」の調査を岐阜協立大学や海津市と連携して継続的に実施し、個体数の増減に係る要因について研究した。</p> <p>○地域の小学生に科学の素晴らしさ、楽しさを伝える実験・実習講座を開催 高校生が大垣市内の小学生に理科や数学の実験・実習を指導した。真空、極低温に関する実験やゲルの生成などについて、小学生に親しみやすく教える方法を工夫し実践した。</p>
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜県や西濃地域に深い関わりをもつ魚の生息環境を探究の題材にしたことで、自然科学を身近に感じながら探究を進めることができた。今後、保全活動をさらに広げていきたい。
外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜県では、ハリヨは西濃地域を中心に分布しており、このような取組は大垣東高校の特色ある探究活動の1つとなっているので、是非継続してほしい。

関高校
主な取組
<p>○関市役所や関市民活動センター等の協力によるSDGs実現に向けたまちづくりの提案 関市役所や関市民活動センター、大学等の協力を得て、「SDGsとまちづくり」をテーマにグループによる課題解決型研究を行い、SDGs実現に向けたまちづくりを提案した。</p> <p>○ベトナムのフエ大学で地元企業から学んだシャインカービングのワークショップの実施 関市の義春刃物（株）が開発した彫刻刀アート「シャインカービング」のワークショップをベトナム研修において訪問したフエ大学で実施し、日本や関の文化を紹介した。</p>
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs実現のための課題研究により、地域の課題とグローバル課題との関連性を再認識できたと同時に、地域貢献事業等に積極的に参加する姿が見られた。今後、発信にも力を入れたい。
外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・高校生が地域課題に取り組む画期的な事業である。高校生のチャレンジに今後も支援を続けたい。また、活動内容に関する小中学生や地域住民への広報も続けてほしい。

可児高校
主な取組
<p>○可児市議会と連携し、高校生模擬選挙及び高校生議会を実施 可児市議会議員の協力を得ながら、公約マニフェストを設定し、10月に模擬選挙を実施した。その結果や課題に対する検討を重ね、2月に高校生議会を行い意見書を提出した。</p> <p>○フィリピンへの海外研修で、来日する外国人技能実習生の実態を把握 「ゴールデンゲートウェイ」日本語研修所を訪問し、今後來日・就労を予定している実習生に対する日本語教育の様子を参観し、日本語教育の講義の一部を担う体験をした。</p>
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・可児市が抱える課題について、エンリッチプロジェクトや海外研修を通して理解を深めることができた。また、グローバルな視点としては、SDGsについて生徒の理解を深められた。
外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に興味・関心をもたせて、学校のみでなく、地域からも育てていくスタイルで応援したい。素晴らしい取組であるため、広報にも力を入れるとよい。

多治見北高校
主な取組
<p>○Amazon多治見FCにおける一日職業体験プログラム「ジョブシャドウイング」の取組 グローバル企業のAmazon多治見FCを訪れ、社員の業務プロセスに密着した。その後、グローバル人材についてディスカッションを実施するなど、キャリア形成の取組を行った。</p> <p>○名古屋大学から招聘した講師による模擬講義の実施 名古屋大学ほぼ全ての学部・大学院から招いた14名の先生による講義を開講、生徒は2つずつ選択、受講した。大学での学びや研究を体験し、新たな目標を持つ機会となった。</p>
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自ら参加したいと思う行事や活動を多く紹介できた。保護者や生徒向けアンケートからも、外部講師の招聘や体験活動が多く、有効な取組だと感じていることが伺えた。
外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットで答えが見つかる現代においては、生徒の探究心がなくなっているように思えるが、多治見北高校では授業以外の体験的な学習機会をたくさん設けており好ましい。

恵那高校
主な取組
<p>○地域の方と共に考え、未来の地域社会人の育成を目指す「恵那田舎塾」の実施 公務員、飲食業、観光業、薬剤師など、様々な分野で活躍されている地域人材を講師として招聘し、地域課題などについて12回にわたり高校生とパネルセッションを行った。</p> <p>○SSH事業で培われた探究手法を県内に普及する「岐阜県合同課題研究発表会」の開催 県内の理数教育推進校5校が集まる合同課題研究発表会を恵那高校で開催した。恵那高校における取組を紹介するとともに、各校における探究活動や研究成果を交流した。</p>
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・恵那田舎塾は生徒が自らの将来を真剣に考える良い機会となった。今後は、学校内で広く参加者を募り、進路指導における教員のコーチング力向上にもつなげていきたい。
外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・恵那田舎塾では、生徒がひたむきに講師の話聞く姿が印象的であった。生徒が教員以外の大人と意見を交わす機会を設けることができ、大変有意義なものとなった。

斐太高校
主な取組
<p>○地域への関心を高め、地域とつながる将来設計について考える講演会の実施 キャリア教育の一環として、地元で活躍する本校卒業生を講師に招き講演会を実施した。将来地域社会に貢献するために、今できることを高校当時の思いも交えて話してもらった。</p> <p>○地域の魅力と課題を探究し問題解決に向けた提言を行う地域活性化プログラムの展開 飛騨高山大学連携センター、岐阜大学、岐阜協立大学の指導のもと、市役所や地域企業等へのフィールドワークを行い、地域課題を発見し解決策を提言する探究活動を実施した。</p>
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・地域への関心が高まったばかりでなく、地域を将来自分が活躍するフィールドとして考えるキャリア教育につながった。今後も地域創生を含めた分野で活躍できる人材育成に取り組みたい。
外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動の成果をHP等に公開したり、提言を関係機関に伝えたりすることで、より多くの地元の方々を知ってもらい、今後さらに活動の協力を得るとよい。

■ 地域に密着した課題を探究する高校

【関連事業】 地域課題探究型学習推進事業

- 地域との連携に課題のある普通科高校において、地元の自治体や高等教育機関、企業等との協働により、生徒が地域の魅力を知り、地域に密着した課題を発見・解決する探究的な学びを実施した。令和元年度の各校の主な取組は以下のとおりである。

羽島北高校
主な取組
<p>○地域を活性化するボランティア活動を展開（HK Tゆいまーるプロジェクト） 地元企業や自治体と連携し、施設訪問、演奏会、書道パフォーマンス、囲碁教室、野球教室、清掃活動、地元の祭りに参加するなどの地域密着型のボランティア活動を展開した。</p> <p>○地域課題を見出し地域と連携して探究する学習を開始（HK Tマイプロジェクト） 協定を結んだ地元の大学の協力により、地域課題の見つけ方やテーマ設定の仕方を学び、フィールドワークを実施して、地域課題を地域への提案としてまとめた。</p>
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の人と交流したこと、また地域に貢献できたという思いが、地域への愛着につながった。また、その様子が新聞・テレビに取り上げられた。生徒の活躍の広報活動を継続したい。
外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・ 取組のコンセプト等について外部の人に理解してもらえることが極めて重要である。活動を通して自主性が育ち、人生を通じてボランティア活動に関与できる人材が育つとよい。

各務原高校
主な取組
<p>○地域課題講演会を軸に、各務原市の課題を発見・解決する探究学習を展開 市長による地域課題の講演を受けた後、地域の方をアドバイザーとして、「ものづくり」「福祉」「シティプロモーション」「観光」の4つのテーマに分かれ、探究学習を実施した。</p> <p>○夏休みに1年生全員が各務原市内の企業を見学 事前に企業について調べ学習を行った上で、夏休みに1年生全員が、市内企業33社へ企業見学に出かけ（1社につき生徒4～13名）、それぞれの企業PRポスターを作製した。</p>
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政が考える視点で地域について考えることができたが、個々の生徒が地域課題を発見・解決するまでには至らず、当地者意識の高揚が今後の課題である。
外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市長が各務原市の課題を生徒に直接提言したのは画期的である。また、40人の地域アドバイザーは重要であり成果があった。個々の課題設定をいかに深めるかが、次年度の課題である。

各務原西高校
主な取組
<p>○地域課題講演会や講話を軸に、各務原市の課題を発見・解決する課題探究型学習を展開 各務原市長や大学教授による地域課題の講話後、市役所職員から地域の課題や現在の活動状況を具体的に聴くことで、解決策を考える課題探究型学習に取り組んだ。</p> <p>○県内の企業や地域の魅力を知る活動を実施 「オール岐阜・企業フェス」への参加や関ヶ原町及び各務原市でのフィールドワークを通し、県内企業や地域の魅力などについて学ぶなど、個々の課題集約を開始した。</p>
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> 各務原市の協力により課題探究型学習がスタートしたが、それぞれの取組に一定の期間を設けることで、より探究を深め、充実した発表できるようにしたい。
外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> 県の施設や地域の人材を活用し、課題探究型学習を効果的に実施していることは評価できる。生徒たちがここで得られた力を将来どう生かすことができるか、検討するとよい。

本巣松陽高校
主な取組
<p>○地域の魅力を知り、「地域課題への具体的取組」につなげることを学ぶ講演会 地元NPO法人から講師を招聘し、まちづくりの支援の活動を紹介していただいた。これにより生徒が地域活動の在り方を知り、地域のために何ができるのかを考える一助とした。</p> <p>○地域課題をテーマに課題解決を目指した探究活動と成果のポスター発表会の実施 地域課題について、現地調査、市役所や県庁担当者からの聞き取り、アンケート調査等を実施し、根拠に基づいた課題解決策を導いた。成果はポスターにまとめ発表会を行った。</p>
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> 地域を題材にした探究活動により、地域の魅力や地元への貢献について考えるきっかけとなった。今後は、さらに地域と連携した学習により、地元へ貢献する人材育成を目指していきたい。
外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> 地域課題に対する取組が、高校生、地域、行政それぞれの視点から提案されており、深い学びとなっていた。この提案を外部で発表することが、具体的な連携につながると思われる。

羽島高校
主な取組
<p>○地域企業とのコラボレーションによる新商品の開発 羽島市に関連した商品や若者の味覚に合う商品など、新商品の企画を地域企業「兎月園」に提案した。また、「シュークリーム」キャラクターの季節ごとのデザインを提案した。</p> <p>○地域の特産物を生かした町おこし事業 羽島市の特産物について調べ、町おこし商品のアイデアをプレゼンし、地域企業のワークショップ等で、特産物の「レンコン」を使った「レンコンチップス」を商品企画した。</p>
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> 地元羽島市の調査により、自分が暮らす羽島市に興味・関心をもつことができた。今後は多様な業界に注目して、より多くの地元企業と連携を図りたい。
外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> 高校生が新商品の企画に取り組むことはよい経験となっている。地元羽島市特産の「レンコン」に注目した活動はとてうれしい。今後は、羽島市の歴史についても理解を深めて欲しい。

大垣南高校
主な取組
<p>○探究学習の進め方や地域課題に関する講演会の実施 地元大学の協力による探究学習についての基調講演や、自治体・地元企業等の協力による各分野での地域課題についての講演を聴き、地域をよく理解する機会とした。</p> <p>○テーマごとのグループで地域課題解決に向けた探究学習を展開 「地域課題全般」「養老鉄道」「地域医療」「企業の取組」「IT関連」「災害・街づくり」「観光・町おこし」の7つのテーマで研修会への参加や現地調査を行い、発表した。</p>
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の魅力や課題を再認識することができたが、課題解決に向けた提案を発信できるとよい。グループで探究の深め方に差があるため、指導の進め方を研究し、方針を統一する必要がある。
外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・地域との関わりが希薄化する中、このような地域に目を向けた取組は重要である。自ら調べる姿勢と更なるプレゼンテーション能力の向上が求められる。

大垣西高校
主な取組
<p>○大垣市の職員による「かがやき出前講座」の実施 子育て支援、観光事業、防災や耐震等、様々な分野における市の現状や取組を生徒に紹介する行事で、9月に2年生、12月に1年生を対象に実施した。</p> <p>○岐阜県選挙管理委員会と連携した「模擬選挙」の実践 1年生対象に、若者が投票する意義についてなどの講義を受けた後、仮想の「西大垣市長選挙」を題材とした模擬選挙を行った。参加生徒全員が投票し、開票作業も生徒が行った。</p>
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・大垣市の取組を知り、地域の現状や課題に目を向けることで、自ら考え、主体的に判断する探究的な学びのよいきっかけとなった。今後さらに深められるとよい。
外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携するこうした事業は数年前まではなかったものであり、実現したことに意義がある。また、生徒が答えのない問いに対して、どう最適解を出すのが事業の成果の1つとなる。

郡上高校
主な取組
<p>○地域の方約20名を招き探究学習の課題設定に向けてアクティブリスニング1on1を実施 地域の方を招聘し、生徒個人の興味や夢を切り口に、探究学習の課題を発見させる手法を取った。生徒の興味や夢に対して、具体化するための1on1ミーティングを実施した。</p> <p>○地域の方が授業補助員となり、探究学習のチームビルディングを3回実践 生徒の「やりたい」を引き出すワークショップに、毎回1～3名の地域の協力者の方を招き、メンターとしてチーム課題に問いを投げかけてもらうなど協働して授業を行った。</p>
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方が講演で、Society5.0やSDGsなどが探究学習に繋がっていることを示していただき、今後よりよく生きていくために必要な学習機会であることを伝えることができた。
外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・大人数の外部の協力者の意識や方向性を統一するためには、事前打ち合わせやレクチャーが大切であり、そのような機会を設けた方がよい。

武義高校
主な取組
<p>○関市役所「関市みんなの就職サポートセンター」の支援を得た企業学習会への参加 市の支援を受け、全生徒が、地元の企業や市役所などを3カ所見学した。将来、社会で活躍する姿をイメージすることで、今後の進路を考えるよい取組になった。</p> <p>○SDGs（持続可能な開発目標）を学ぶ研修会を実施 地域課題探究型学習協議会の委員であるSDGsカードゲーム公認ファシリテーターから、カードゲームでSDGsを学ぶ研修会を実施し、地域課題との繋がりについて考察した。</p>
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・地元企業の生産物が環境保全に活かされていたり、日本や世界で大きなシェアを占め多くの人の生活を支えていたりを知ることができた。今後、個々の課題意識としていきたい。
外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・地域にも魅力ある企業がある。どんな地域であれば将来も自分が住みたいか、子どもを育てたいかを考えて、1つ1つの課題に取り組んでみてほしい。

加茂高校
主な取組
<p>○地域で活躍する大人の協力を得て、興味を広げたり深めたりする探究学習を実施 まちづくりやスポーツ、経済、報道、医療など多彩な分野で活躍している地域の方16人を講師とした「地域の大人と語る会」を実施し、後日パネルディスカッション等を行った。</p> <p>○地域の教育資源をフル活用して、地域課題探究学習を実施 「地域の大人と語る会」の講師の方へのインタビューなどを通じて、各生徒が興味・関心や進路希望に応じたレポートを作成し、プレゼンテーションを行った。</p>
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は探究学習を通じて、将来の進路についての意識を高めることができた。さらに深めて、生徒が自由な発想により、地域に向けた活性化策を提言できるとよい。
外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒にとっても地域にとってもプラスになる事業であり、地域の方と繋がったネットワークを今後も存分に生かしてほしい。

多治見高校
主な取組
<p>○土岐川の生態系を豊かにするために高校生ができる自然再生手法の確立を目指した研究 自然科学コースでの取組を継続し、土岐川観察館や土木研究共生センターの協力を得て、実験河川で石積みの形などを研究し、魚種・固体数を大幅に増やすことに成功した。</p> <p>○「まちづくり株式会社」と協働イベントの実施と高校生版ビジネスコンテストで取組発表 「ながせ商店街に人を呼ぶためには」をテーマに、クイズラリーと飲食店を一度に楽しめるイベントを企画・運営し、「TAJICONハイスクール」で発表し、グランプリを獲得した。</p>
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・自然再生手法の確立を目指した研究は、エコワングランプリで発表し、内閣総理大臣賞を受賞するなど、様々な機会・場面で発表し、評価を得た。今後も継続したい。
外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・「まちづくり株式会社」との協働イベントは、とても素晴らしいものであるため、今年度だけでなく、次世代へとつないでいき、継続的な活動になるとよい。

中津高校
主な取組
<p>○付知出身の生徒と付知の方々による付知の課題探究活動 地元自治体、地元企業、まちづくり協議会等の協力により、付知を知りその将来を考えるとともに、特産品である木材や栗きんとんを使った商品をチームで開発し、販売した。</p> <p>○中山道・中津川宿の魅力を発信するチームでの探究活動を展開 地域でのまち歩きや中山道歴史資料館での勉強会を開催し、中山道・中津川宿の魅力発信を実践した。生徒から発案で、中山道歴史資料館や市のバックアップを受け実現した。</p>
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・探究学習を通じ、地域の魅力や課題を発見し、地域の人々の協働により学びを深めることができた。活動を広報するとともに、中津川市との連携強化により地域での活動の幅を広げたい。
外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・活動自体が生徒発信という点が素晴らしい。情報発信にSNSを活用したり、外国人観光客を意識して英語を実践的に使ったりするなど、生徒は総合的に力をつけたことだろう。

益田清風高校
主な取組
<p>○協議会で提案された5つの地域課題等についての探究学習を展開 「若者が地域で働くには」など協議会で提案された5つの地域課題等について、大学教授から探究技法についての講義を受け、グループごとに探究活動を実施し発表会を行った。</p> <p>○居住地域と自身の未来を見据えた「授業参加型」の大学見学を実施 地域のことを考える先に自身の進路がつながることを意識し、「授業参加型」の大学見学に、2年生普通科の全生徒が参加した。</p>
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・地域について考えることが、自身の将来について深く考えることにつながった。今後は生徒の探究活動を支える体制を固める必要がある。
外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動を行うにあたり、何故そのテーマを探究するのかといったことを大切にしてほしい。また、町の方から話を聞いたり、実験を行ったりすることも必要である。

■ 地域の企業等と連携した専門高校

【関連事業】スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール事業

地域との協働による高校教育改革推進事業

地域産業の担い手育成総合戦略事業

- 生徒が自己の能力・適正について理解を深め、将来の自己実現に向け効果的なキャリア教育を推進するため、地域創生の担い手となる人材の育成も見据えながら、産業界と連携したインターンシップ、産業界と連携した実践的な職業教育、グローバルな視野をもつ専門高校生の育成などの取組を展開した。令和元年度の各校の主な取組は以下のとおりである。

岐阜総合学園高校
主な取組
<ul style="list-style-type: none">○岐阜のよさを発見・発信する写真展「ディスカバリー岐阜」の開催に向けた取組 地元岐阜を盛り上げる写真展の次年度の開催に向け、「Discovery熊野」を立ち上げた同世代の講話を聴き、各系列別に実施内容等について計画を立てた。○「ゆうやけコンサート」をはじめとする地域交流活動 マルチメディア部や太鼓部など文化系の部活動が、地域の方々向けに活動成果を披露したり、県や地域の企画する行事等に積極的に参加したりするなど、社会貢献や地域交流を目指した。
成果と課題
・先進的な取組をしている高校の実践を参考としながら、生徒の実行委員が中心となり、各系列ごとの活動内容について、生徒目線で計画を立てることができた。
外部の方からの意見
・地域の魅力を知り、その魅力を発信する取組は、生徒たちにとって、今後の人生の1つの指標をもつことにつながるよい機会となる。

岐阜城北高校
主な取組
<ul style="list-style-type: none">○地元企業の職人を招聘し、洋菓子作りの技術やその魅力が伝わる商品開発技法を講習 地元の洋菓子店の協力を得て、洋菓子づくりに係る技術はもちろんのこと、商品開発の考え方、地元の特産品（素材）の活かし方などについて直接講習を受けた。○伝統文化・地元産業をはじめ、職人の考え方や思いを知る学習 地元地域で相撲ののぼり旗、神社の横幕、大漁旗など幕類の染付、縫製を行う企業の協力を得て、旗制作における文字の書き割り講習を受講し、糊置き及び染付の体験をした。
成果と課題
・企業や関係団体との連携により、生徒たちが地域と積極的な関わりをもつことができ、地域の伝統文化や歴史、産業の魅力を知るきっかけとなった。
外部の方からの意見
・地域の伝統文化や産業を学ぶことができるよい取組である。製作技術等、専門性の高い技術を広く身に付けることができるよう継続してほしい。

岐南工業高校
主な取組
<p>○地域連携による地域産業の活性化と人材育成につながる研修 就職後のミスマッチによる早期離職を無くすため、「働くこと」や「人の話の聴き方、自分の意思の伝え方」など、社会人として必要なスキルを高める研修を行った。</p> <p>○地元伝統文化や地元企業に触れ、郷土愛を醸成する活動を展開 優れた地元企業があっても、それを知らずに地元を離れている生徒もいる状況を踏まえ、進路選択の前に地元の企業情報や伝統文化を知り、郷土愛を持たせる活動を行った。</p>
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人に目標を持たせ、研修に参加させることで、多くの生徒が目的を達成したと回答している。今後の最終的な進路選択に役立たせたい。
外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・地元の伝統文化や地元企業の魅力を紹介するのは、若い世代が「働きやすい」「この地に住みたい」と思える環境や雇用などの地域の魅力を伝えるよい機会である。

岐阜各務野高校
主な取組
<p>○認知症者に声掛け・保護・通報の訓練をコンビニ・郵便局・公園にて地域住民と共に実施 各務原市高齢福祉課と地域住民の協力を得ながら、福祉科生徒が認知症者対応模擬訓練を体験的に学び理解を深めるとともに、情報科生徒がこれを撮影、記録動画を作成した。</p> <p>○地域スーパー銭湯と連携し、販売実習とイベントから新たな取組を計画立案 ビジネス科生徒が体験型販売「バスボム作り」等を実施し、この検証を踏まえ、来年度は「効く（温泉）・利く（介護予防）・聴く（話）」で高齢者が元気になれる計画を立案した。</p>
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は「地域共生社会」をテーマに、他学科と連携を図り学校全体で取り組むことができた。しかし、認知症や障がい者といった分野に偏りが生じ、来年度の取組に工夫の必要性がある。
外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題に対し、本校の特徴を生かした学科を越えた連携が図られている。今後も市と連携を図り、生徒の可能性を伸ばし、成果が上がることを期待したい。

岐阜農林高校
主な取組
<p>○地域固有種「徳山唐辛子」の種（しゅ）の伝承と特産品「底地辛うどん」の開発 旧徳山村で伝統的に栽培されていた徳山唐辛子の種を後世に伝承するとともに、郷土料理であった地獄うどんを再現できるよう「底地辛うどん」の開発に取り組んだ。</p> <p>○「富有柿」の消費拡大に向けた「柿レモンジャム」の製造開発 富有柿の甘さに、レモンのさわやかさを加えた「柿レモンジャム」の製造開発に取り組み、大野町と連携して特産である富有柿の消費拡大を目指した。</p>
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・取組を通して、地域の素材や課題に関心を持ち、課題解決しようと試みたり、地域素材を活用して新たな商品開発を手掛けたりする手法を身に付けるなど、生徒の積極性が育まれた。
外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・消費者が満足する商品を作るには、均一で高品質な生産物を作る必要がある。今回の取組は、高いレベルで実践されており、学習成果を生かして地域農業の担い手育成につなげてほしい。

岐阜工業高校
主な取組
<p>○地域産業を担うテクノロジストの育成による日本の製造業を支える人材育成 県内航空機製造関連企業の熟練技術者による、航空機の翼モデルの製作指導を通して、設計から加工、組立等の航空機製造の一連の工程における専門技能の向上を図った。</p> <p>○地域を愛するテクノロジストの育成による新たなビジネスモデル提案 笠松町のふるさと納税の返礼品として「プロジェクションマッピング」を提供するために、関係者との協議やイメージの検査、修正などを通して、要望に沿った提案を行った。</p>
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> 生徒が考案したビジネスモデルを、各種コンテスト等で発表することにより、生徒の自信につながっている。今後はビジネスモデルのサービス向上を図る必要がある。
外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> 新たなビジネスモデルの挑戦に対し、生徒たちははっきり取り組んでくれた。ビジネスモデル（返礼品）の受注が増えるように、今後も頑張ってもらいたい。

大垣養老高校
主な取組
<p>○安全、安心な水稲生産と野生動物管理システムの構築 品質や安全性、環境に配慮した水稲の生産に取り組むとともに、輪之内町や地域の企業と連携して田んぼアートを作成し、地域に安全、安心な水稲栽培を広げることができた。</p> <p>○地域資源を生かした特産品の開発 大垣の湧水を仕込み水に使用したオリジナル醤油の製造・販売や、養老の滝付近の土から分離した酵母菌を使ったオリジナルパンを開発し、地域の魅力を発信することができた。</p>
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> 地域資源を発見し、地域の強みと課題を組み合わせることでアイデアを生み出すことで、新たな特産品やサービスをかたちにすることができた。
外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> 地域の担い手育成の視点から、取組を通して、地域がどのように変化したか、生徒がどのように変わったのかを明確にするとともに、しっかり検証することが大切である。

大垣商業高校
主な取組
<p>○地元企業との連携による惣菜の新商品開発及び販売実習を実施 商品開発の授業において、地元の寿司店と連携して商品を開発した。開発した商品は、大垣駅前にて開催された「西美濃まるごとバザール」にて販売し、用意した1,000個を完売した。</p> <p>○地元自治体や観光協会等との連携により市内の湧き水めぐりMAPを制作 大垣観光協会等の協力を得て、市内24ヵ所の湧き水スポットや周辺店舗等取材し「湧き水めぐりMAP」を制作した。また、このMAPをもとに湧き水めぐりの体験会を実施した。</p>
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> 西美濃まるごとバザールにおいて地域の方々と交流することで、販売実習や体験会の運営を行うことができた。また、交流を通じ、本校が地域の方々に支えられていることも実感できた。
外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> 商品企画から販売までの一連の流れを講義や実習から理解することは、大変よいことである。商品開発にとどまらず、経営のノウハウについても学んでほしい。

大垣工業高校
主な取組
<p>○産業界との連携による地域資源（恵み）の発見や活用した実践 地元企業と連携し「海外インターンシップ」を実施した。また、大垣市産業振興室と岐阜県金型工業組合の協力による「名工塾」を活用し、地元企業や大学の見学会も実践した。</p> <p>○地域団体との連携による地域資源（恵み）の発見や活用した実践 大垣市産業振興室、大垣観光協会、大垣市商店街振興組合連合会などの地域諸団体と連携し、地域イベントにてワークショップを開催するなどの活動を複数回実施した。</p>
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・地元地域の企業と連携を図ることで、多角的な思考力、判断力を形成することができた。今後は、全校生徒が「ふるさと教育」により関わりが持てるような授業展開が必要である。
外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員から「地域イベント等における大垣工業高校生徒の多岐にわたる実践には、好感が持てる。」との賛辞をいただいた。

大垣桜高校
主な取組
<p>○ミネラル弁当の開発と皮羊羹プロジェクトの実施 地元企業と連携し、「ミネラル」を効果的に摂取できる弁当を開発し、地元地域の高齢者宅に配布した。墨俣町伝統和菓子「皮羊羹」を学び、地域に広め残す研究を実施した。</p> <p>○多世代交流活動SAKURAステーションの始動 多世代が集う交流の場を作り、乳幼児親子や婦人会、高齢者世代と共に、伝統の皮羊羹作り、布を使った小物作りを実施し、交流活動を展開した。</p>
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・SAKURAステーションでは、発信方法や空間づくり、活動内容などをさらに工夫し、今後も地域の課題解決のため、地域の方々が参加できる異世代交流の場を企画したい。
外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自己有用感等を高められるよう、学校と企業が連携を深めていくことが大切である。今後、地域の潜在的な課題を見つけ出し、学習内容に繋がる活動にできるとさらによい。

加茂農林高校
主な取組
<p>○美濃加茂市の花「アジサイ」を活用したアジサイロードの整備 地元自治体と協力し、耕作放棄地に美濃加茂市の花「アジサイ」を植栽するとともに、外構・立て看板を設置するなど、アジサイロードを整備し、市の花としてアピールした。</p> <p>○「アジサイ」を用いたプリザードフラワーやアレンジメントなどの地域特産品開発 美濃加茂市の花「アジサイ」を使ったプリザードフラワーやアレンジメント、アジサイ色を再現したかき氷など、アジサイにちなんだ地域特産品の開発に取り組んだ。</p>
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方と協力して、学科ごとに専門性を生かした地域活性化の活動ができた。また、5学科が一体となって、地域との交流や活動を実施することができた。
外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・学校で学んだ知識を地域で生かすよい取組である。担い手育成はすぐにはできないので、このような取組を広げて、地域に興味を持つきっかけ作りとすることが大切である。

東濃実業高校
主な取組
<p>○学科や種類の学びを活かし、地元企業や自治体等との連携を通じた探究学習を展開 御嵩町を住みたい町にする企画、地元企業とのイベント企画・運営、地域行事での開発商品販売、御嵩町活性化アプリ制作等、地域活性化をテーマとした探究学習を展開した。</p> <p>○御嵩町の魅力を探究し、地域の一員として継続的に地域貢献活動を実施 地域特産品を使用したスイーツの考案や、小学生へのお菓子講習会、地域民話の人形劇の上演、「夢いろ指体操」の普及等、多世代に対して地域の魅力普及活動を実施した。</p>
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> 各学科・種類の特色を活かして、地域に軸足を置いた活動を実施し、自らの学びを再認識するとともに、新たな発見をもとに次年度や今後の目標を明確化させることができた。
外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> 高校生の地域行事参加は、地域全体の活性化に大きな影響力を持っている。今後も積極的な参加を期待する。地域に向けた様々なアイデアや企画の提供もさらに期待したい。

可児工業高校
主な取組
<p>○可児自動車学校との連携によるドローン操作講習会 建設工学科土木類型の生徒を対象に「工業技術基礎」の授業において、可児自動車学校より講師を招き、土木測量の現場で今後必要となるドローン操作の講習会を実施した。</p> <p>○株式会社弘栄工務店および株式会社木講堂との連携による建築施工実習の実施 建設工学科において「課題研究」の授業として、地元建設企業より建築施工の職人を招き、老朽化した校内構造物（ポンプ庫）の解体・設計・施工など、建築施工技術を学んだ。</p>
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> 実際に社会で活躍される外部講師から専門的な技術指導を受けることにより、生徒が現在学んでいる専門分野への関心を高められたとともに、地元企業への興味・関心の向上につながった。
外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> 外部との技術連携により、生徒と企業・行政間の相互理解は達成できたと思われるが、生徒の興味・関心をより深めるため、連携する企業や施設の広がりが必要である。

多治見工業高校
主な取組
<p>○伝統技法の型起こし成形による皿の製作 生徒のデザインを切削型3Dプリンタで削り出し、それを原型として石膏型を作成、伝統技法の型起こし成形で皿を製作し、多治見市主催の子育て支援事業楽市楽座に提供した。</p> <p>○地元企業との連携「海外インターンシップ」の実施 地元企業と連携し、台湾工場にて海外インターンシップを実施した。また、現地の高校とも交流を行い、地元「多治見」を紹介するなど同世代でコミュニケーションを図った。</p>
成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> 海外インターンシップは、地元企業の活動を知る機会となっただけでなく、言葉の通じない環境で、試行錯誤しながら生き抜く力を身に付ける大変貴重な経験となった。
外部の方からの意見
<ul style="list-style-type: none"> 台湾工場の工場長から、参加した生徒たちに向け「現代は日本にいただけではいけない。今後もっと外に目を向けて世界を知って欲しい。」とアドバイスを受けるなど評価をいただいた。

土岐商業高校
主な取組
<p>○地元企業協力のもと多職種を体験できる中長期インターンシップの実施 2年生全員がインターンシップを8日間実施した。地場産業である陶磁器の製造販売会社において、参加した生徒全員が、製造・販売事務・出荷の複数の職種を体験した。</p> <p>○郷土の地域資源を有効に活用して、郷土愛をはぐくむ探究型学習プログラムの展開 かがみがはら航空宇宙博物館やアクア・トトぎふにおいて、県内の産業や歴史について学んだ他、土岐川と生き物の様子など地域の環境保護への意識を高めることができた。</p>
成果と課題
・施設見学を通して、岐阜の歴史や産業、自然のよさに気付き、郷土を誇りに思う気持ちを醸成することにつながった。これらを商業の学びと関連させたキャリア教育が必要である。
外部の方からの意見
・商業科の枠を越えて職業体験やガイダンスを行うことは、生徒が進路を考える上で進路選択の幅が広がる。東濃を活気づけるような人材の育成を望んでいる。

飛騨高山高校
主な取組
<p>○ふるさと魅力体験実習の実施 地域の指導農業士宅でトマトの管理作業（収穫など）や、モモの収穫作業と調整、地域の農林業や自然環境に実際に触れられる農業体験実習を5日間実施した。</p> <p>○マレーシアでの農業体験と視察 海外の農業体験や農業視察を通して、世界の文化や人柄に触れグローバルな視野を身に付けるとともに、世界と日本の比較を通して、改めて地域農業の現状を知ることができた。</p>
成果と課題
・取組を通して地域農業の大切さを実感するとともに、農業経営面での管理作業の工夫点等を学ぶ機会とすることで、将来の農業の担い手意識を強く持つことにつながっている。
外部の方からの意見
・今後も高校と地域が連携を深めながら、地域づくりに貢献する人材育成を図るとともに、より一層、地域に密着した教育活動に繋げていけるとよい。

ふるさと魅力体験事業の報告

- 「ふるさと岐阜」への愛着をはぐくむ教育の一環として、岐阜かかみがはら航空宇宙博物館など、県の自然・歴史・文化・産業等に関する施設や名跡等を訪れ、体験活動や教育プログラム等を実施することにより、岐阜県の魅力を知り体験する学びを、小・中学生に加え、新たに高校生に対しても実施した。

(令和元年度からの3年間で全県立高校63校が実施予定)

令和元年度実施校：長良、羽島北、岐南工業、岐阜各務野、池田、大垣西、大垣工業、不破、武義、加茂、可児工業、多治見工業、瑞浪、土岐商業、恵那、恵那南、中津川工業、飛騨高山、高山工業

(参考) 各校の取組み例

地域とともに活性化する魅力ある高校

対象校

山県、揖斐、池田、不破、海津明誠、郡上北、
関有知、八百津、東濃、瑞浪、土岐紅陵、恵那南、
恵那農業、坂下、中津商業、中津川工業、
高山工業、吉城、飛騨神岡

- ✓ **高校と地域の連携**により、互いにアイデアを出し合い、地域課題を発見・解決する学びを推進
- ✓ **地元企業等で即戦力**となるような人材を育成するとともに、進学においては推薦・AO入試等にも対応できる**基礎学力**を獲得

■ 郡上北高校

地域とともに

「KCDプロジェクト(※)」を通じ、郡上の魅力を創造・発信

(※) Kita高 C (community) D (development) 郡上北高 地域と共に発展プロジェクト

公民館応援隊 みらい会議 B1グランプリ Good Gujo Project

地域行事に参加し、地域のイベントを企画・運営 企業へ商品を提案

Excel実習の支援 中高連携 清流長良川あゆパークと連携し、メニューを開発

梅ざりー 鮎ご飯 鮎茶漬け

商品開発・販売を通して
地域活性化を
継続・発展
できる人材を
育成

■ 東濃高校

地域とともに

地域課題解決型学習に関する科目を学校独自で多数開講

☞「地域の地理と歴史」「地域の産業と観光」「地域コミュニティ」「地域政策」「課題研究」

御嵩町等との連携による地域課題の把握・研究・提案など

地域をフィールドとした探究活動



鬼岩公園での実態調査

間伐材の伐採体験

消防団体験

測量体験

KJ法で課題を整理

外国人向け「日帰りプラン」「宿泊欲張りプラン」を作成 生徒が地域活性化策を提案



御嵩の魅力や名所を発信

みたけ華ずしなど郷土料理を紹介

旧中山道の名所マップ作成

■ 飛騨神岡高校

地域とともに

地域課題解決型学習の一環として「楽天IT学校(※)」を実施

(※) 地域住民等の協力を得ながら楽天サービス等を活用し地域課題解決を立案するプログラム



旧神岡鉄道跡を利用した
レールマウンテンバイクコースに
LEDイルミネーションを設置など
観光客誘致策を提案・実施



飛騨市長による講話

代表チームは
全国大会に出場

飛騨市観光プラン
を地元市議等に
説明するなど、
社会に出て役立つ
プレゼンテーション
能力を養成

■ 揖斐高校

地域とともに

年間を通じてデュアルシステム^(※)を実施

(※)企業での実習などにより若者を一人前の職業人に育てる仕組み(企業等での実習を単位認定)



地元農産物の加工場での実習



地元工場での実習



建設現場での実習

地元地域の食品加工場や工場、
建設現場などでのデュアル実習により
将来地元で活躍できる地域人材を育成

■ 恵那農業高校

地域とともに

恵那市耕作放棄地再生「花咲か里山プロジェクト」で地域貢献

☞ 工作放棄地でハチミツとえごまを生産、食パンなどに加工、東京他で販売



食パン、えごま味噌などを商品化



開発した商品を東京で販売



「大丸百貨店賞」受賞

グローバルな視野で質の高い農業教育を展開

☞ 文部科学省の研究指定「めざせスペシャリスト」研究開発校 及び 数々の全国大会で受賞



津波被災地での空心菜による水質浄化で環境大臣賞



世界らん展で最優秀賞(2014年)、優秀賞(2018年)

グローバルな視点で課題を探究する高校

対象校

岐阜、岐阜北、長良、岐山、加納、岐阜商業、岐阜農林、大垣北、大垣東、関、可児、多治見北、恵那、斐太、吉城

- ✓ 地域の課題等を**グローバルな視点**で捉え、海外の関係機関等と連携して、課題を発見・解決する探究的な学びを推進
- ✓ 知的好奇心やプレゼンテーション能力を育み、**幅広い学力の向上**を通して新大学入試制度に対応

■ 大垣北高校

グローバル

地域活性化を目指して、「国際開発」「国際ビジネス」「環境エネルギー」「国際医療」「比較教育」の5分野から生徒が各自課題を選択し、全ての生徒が個人で課題研究

地元の大学から地域課題の講演



岐阜協立大学長から
岐阜県の地域活性化について講演

地域フィールドワーク



地域フィールドワーク(高山市)で
地域活性化の課題を確認

海外フィールドワーク
(海外展開している地元企業と連携)へ発展



カンボジアでの寺子屋企画



ベトナムの高校での意見交流

現地に進出の
地元企業や
現地高校生と
地域活性化に
関する意見交
流などに発展

■ 関高校

グローバル

海外フィールドワーク(イギリス・ベトナム)と地元地域探訪
双方の比較に基づくグローバルな視点による探究活動



現地の学生の案内による
イギリス・オックスフォード大学の見学



ベトナムの高校での
関の刃物など日本文化の紹介

海外フィールドワーク

海外の状況と地元地域の歴史を関連させてグローバルな視点で地域課題研究

地元地域の歴史探訪



地元教育委員会主事の指導による
史跡(古戦場)研究



地域ふれあいセンター職員から
歴史遺産の保全や活用の説明

■ 多治見北高校

グローバル

地域の自然環境に関する科学研究と
ALTによる英語指導を併せた課題探究の充実



自然史博物館の学芸員の指導による
汐川干潟での環境研究

地元との高度差による植物の
変容を学ぶ乗鞍バイオーム大巡検



ALTと英語合宿(エホ・ワーマントプログラム)
による英語研修

課題探究発表会



英語による課題探究発表会で
英語力と研究成果を披露

地域に密着した課題を探究する高校

対象校

羽島北、各務原、各務原西、本巣松陽、羽島、大垣南、大垣西、郡上、武義、加茂、多治見、中津、益田清風

- ✓ 高校と地域の連携を通して、生徒が地域の魅力を知り、**地域に密着した課題を発見・解決**する探究的な学びを推進
- ✓ ふるさとへの誇りや愛着とともにプレゼンテーション能力を育み、**学力の向上**を通して、新大学入試制度に対応

■ 各務原高校・各務原西高校

地域密着

各務原市と連携した地域課題解決型学習

今年度は各務原市内の普通科2校で**合同の協議会**を設置
各務原市とその周辺の社会的課題を把握し、今後は個々のテーマを探究

市長による地域活性化に関する
講演と生徒への問いかけ



各務原市は製造業の優良企業が多い
一方で**人材不足**であることに関して
生徒と質疑応答

講演を受けてグループワークで
探究テーマの整理



個々の探究テーマを絞り
個々に課題研究を進行

■ 多治見高校

地域密着

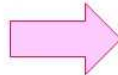
地域の生態系を調べ海外の状況も参考に課題研究
 地域課題として**地域の希少生物の生態に迫る**探究活動を実践



多治見市土岐川観察館や河川財団等と連携し
 土岐川の生物調査を行い
 自然環境のあるべき姿の提言を目指す



多治見市の準絶滅危惧種に指定されている
 アカザを2匹確認



南アフリカのノースウエスト大学の
 研究者との意見交流



英語による問いかけ

**海外の状況も参考にし、
 各自でレポートを作成**

■ 益田清風高校

地域密着

観光客への地域の魅力発信を通じた課題探究活動
 地域の魅力を把握 → 観光ガイド等で実践 → 課題探究へ



地元企業による地域の魅力を知り
 情報発信につなげる指導



地域の魅力を観光客に伝える取組
 (GW下呂観光案内ガイド)

県政ほっとラインでも放映



調理師による食文化の説明



地域農家と連携して生産した
 野菜や企画開発した商品を販売

**観光ガイドや販売
 の実践を通じて
 地域課題を
 今後さらに探究**

地域の企業等と連携した専門高校

対象校

岐阜総合学園、岐阜城北、岐阜商業、岐南工業、岐阜各務野、岐阜農林、岐阜工業、大垣養老、大垣商業、大垣工業、大垣桜、海津明誠、郡上、武義、関有知、加茂農林、東濃実業、可児工業、多治見工業、瑞浪、土岐商業、恵那農業、坂下、中津商業、中津川工業、益田清風、飛騨高山、高山工業

- ✓ 地域産業における各方面の**専門家から直接学ぶ**機会を増やし、**地域と連携した専門的・実践的な学び**を推進
- ✓ **地域産業の担い手**として、**地元企業などの最先端**の現場で**即戦力**となるような**技術や人間性**を習得

■ 大垣商業高校

企業連携

地元企業と連携し商品開発→販売まで手掛ける商業教育

<p>地元企業と連携したハツシモを利用した新商品の開発</p>  <p>生徒から提案 → 提案を受けて商品化</p>	<p>ポスター制作、樽見鉄道の駅に掲示</p>  <p>モレラ岐阜駅等にポスターを掲示</p>
<p>開発した商品等の販売実習</p>  <p>関ヶ原イベントで販売実習 新商品を販売</p>	
<p>西濃地域での商業実践活動により将来の地域のビジネスリーダーを育成</p>	

<今年度のテーマ>
 「日帰り観光／湧き水めぐりコース」を企画・運営
 (湧き水を主体とする観光名所をSNS等で発信)
 7月 ふるさと「大垣」について(三輪酒造講演)
 9月 実施調査(湧き水場所確認と周辺施設調査)
 11月 モデルコース体験会を実施
 (一般の方を対象にした自転車での体験企画)

■ 郡上高校

企業連携

地域の食文化の伝承と新たな魅力の開発を通した高度な農業教育

ワナによる狩猟の勉強会



試食を兼ねた意見交換会及び報告



鹿肉の調理法の実演



明宝ジビエ研究会の協力により
専門性の高い食の授業を展開

■ 可児工業高校

企業連携

地元企業等の専門家による実践的な工業教育

KYB(株)との連携による
旋盤技術の習得



可児自動車学校との技術連携による
ドローン操作の講習



地元工務店との連携による
建築施工の実践的授業



地元企業等の専門家の直接指導による
専門的・実践的な授業を展開

ふるさと魅力体験事業

対象校

令和元年度からの3年間で全県立高校63校が実施予定

令和元年度実施校

長良、羽島北、岐南工業、岐阜各務野、池田、大垣西、大垣工業、不破、武義、加茂、可児工業、多治見工業、瑞浪、土岐商業、恵那、恵那南、中津川工業、飛騨高山、高山工業

- ✓ **小・中・高で一貫して「ふるさと岐阜」への誇りと愛着をもち心豊かでたくましい子どもを育む教育の推進**
- ✓ **探究的な学びのベースとして「ふるさと岐阜」の魅力を知るため前年度まで小・中学校で行われていた取組を高校ならではの視点で展開**

■ 各校の訪問の例

ふるさと魅力

- 県内の自然、歴史、文化、産業等に関わる施設・史跡での**体験学習**
【例】 岐阜かかみがはら航空宇宙博物館 + 大学や企業見学
【例】 県内の複数の施設・史跡等を組み合わせて訪問
- HR活動や総合的な学習(探究)の時間の中で**事前事後学習**を実施



(4) ICT環境整備

- 令和元年度、全ての県立高校において、全ての普通教室と一部の特別教室に、電子黒板機能付き短焦点プロジェクタ、実物投影機、無線LANアクセスポイント、指導者用タブレット型ノートPCを設置するとともに、全ての黒板をホワイトボードに張り替えた。また、学習者用タブレット型ノートPCは、3クラスに5台程度整備した。



プロジェクタ



実物投影機



タブレット型ノートPC

- 県教育委員会事務局職員と教員とで構成されるICTワーキンググループを組織し、授業における効果的なICTの使用方法や働き方改革への寄与について、教員からの意見を踏まえて検討・議論し、以下の取組を実施した。

(ア) 「ICT環境整備事業に関するQ&A」の作成

ICT環境の整備に合わせて、整備したICTの基本的な接続方法や県教育委員会の考え方を示したQ&Aを全校に送付した。

(イ) 「県立学校における授業でのICT活用ガイド」の作成

令和元年9月には、授業におけるICTの基本的な活用事例について示した「基本編」を、令和2年2月には、各教科の授業におけるICTの活用事例と授業動画が閲覧できる「実践編」をそれぞれ作成し、全校に送付した。



(ウ) 教員研修の充実

◇ 「授業が変わる！授業が深まる！ICT活用」研修の実施

ICT活用に関しての見識が深い東京学芸大学の高橋純氏を講師に招いて、ICT活用の実例や効果について研修を行い、143名の教員等が受講した。

なお、研修はWeb会議システムを活用し、学校に居ながら聴講することも可能としたことで16名の教員等が受講した。

◇ ICTを活用した公開授業の実施

地域や教科のバランスを考慮し、県立高校16校において37コマの公開授業を実施した（公立高校の教員263人を含む延べ403人が参観）。

実施日	実施校	実施教科	参加人数
令和元年9月17日	岐阜	地歴公民、保健体育	36人
令和元年10月4日	羽島北	英語	20人
令和元年10月8日	中津	国語、理科	17人
令和元年10月21日	益田清風	英語、商業	19人
令和元年10月23日	岐阜北	地歴公民	19人
令和元年10月29日	大垣桜	数学、家庭	30人
令和元年11月5日	大垣北	国語、数学、英語	59人
令和元年11月8日	恵那	国語、地歴公民	19人
令和元年11月11日	多治見	国語、地歴公民、理科、保健体育	29人
令和元年11月12日	吉城	理科、保健体育	15人
令和元年11月15日	斐太	数学	13人
令和元年11月20日	岐阜農林	農業	11人
令和元年12月5日	大垣東	国語、英語、地歴公民	40人
令和元年12月9日	岐山	数学、理科	27人
令和元年12月11日	加茂	国語、地歴公民、理科	32人
令和2年1月29日	中津川工業	英語、工業	17人

◇ ICT活用推進リーダー研修の実施

各校（校舎・課程ごと）において「ICT活用推進リーダー」を位置付け、令和元年12月に「ICT活用推進リーダー研修」を行った。研修内容は以下のとおりである。なお、各校の「ICT活用推進リーダー」が、校内研修でその内容を伝達した。

- ・情報教育の今日的意義と教育の情報化（講義）
- ・新学習指導要領におけるICT活用について（講義）
- ・ICT環境整備、ワーキンググループ、活用ガイドについて（紹介）
- ・実物投影機の活用（エルモ社による講義）
- ・電子黒板機能の紹介（ICT公開授業の動画等を紹介）
- ・Web会議システムの活用（実践紹介）
- ・GONetの運用（講義）
- ・タブレット型ノートPCの活用（マイクロソフト社による講義）
Microsoft Teams や Microsoft Forms の紹介等
- ・学校における著作権について（講義）

◇ 授業力向上推進プロジェクトの実施

各教科において選出された研究委員が、授業におけるICTの効果的活用について研究・実践し、成果を普及した。

（エ）「授業におけるICTの活用に関するアンケート」の実施

県内の教員や生徒のICT活用の現状を把握し、今後の教育政策や教員研修の参考とするため、令和元年7月、10月、令和2年2月の3回、授業でのICT活用に関するアンケートを実施した。プロジェクトの活用については、1週間あたりの利用時間や1時間以上の利用人数が、全世代（20代～60代）の教員で整備前に比べ2倍以上になった。（資料編 参考資料5を参照）

（オ）BYOD（※）への対応通知

無線LAN環境の構築と共に、岐阜県オープンネットワーク（GONet）を整備したことで、生徒の個人所有の情報通信端末をインターネットにつなぐことができる環境になった。

これに伴い、各学校においてBYODによる対応ができるようネットワーク利用要領を作成するとともに、県立学校用のガイドラインを例示するなど、全校に通知した。

(※) BYOD : Bring Your Own Deviceの略。

個人所有の情報通信端末を学校に持ち込み、授業等に活用すること。

(カ)「ICT相談窓口」の設置

ICT活用に向けて授業改善を試みようとする教員を応援するため、県教育委員会事務局の担当者が、教員からICT環境の活用の質問・相談を直接受け付ける相談窓口を、令和2年3月に2日間設置し6件の相談に対応した。

(5) 進学指導推進事業

- 平成29年度から普通科を設置している高校を中心に、県立高校における大学合格実績の向上を図るため、新大学入試制度に対応できる生徒の学力や教員の進学指導力の向上を推進している。

本事業では、進学指導重点校事業、進学指導連携事業及び県総合教育センターによる研修事業を、前年度の実績をもとに改善を図りながら、継続して実施している。

(ア) 進学指導重点校事業

- 大学進学を主目的とした普通科がある高校の中から、6校を進学指導重点校に指定している。各校の令和元年度の実績は以下のとおりである。

平成29年度～	岐阜北、大垣南、加茂、可児
平成30年度～	加納、本巣松陽

学 校 名	特色ある主な取組
岐 阜 北	◇：外部講師による小論文講座、名古屋大学出前講座 ◆：教育研究セミナー、先進校視察
大 垣 南	◇：外部講師による進路講話、小論文対策講座 ◆：教育研究セミナー、先進校視察
加 茂	◇：外部講師による知的好奇心や進路意識の高揚を引き出す講座 ◆：「主体的・対話的で深い学び」や「高大接続」を意識した授業改善のための研修会
可 児	◇：外部講師による苦手科目克服講座 ◆：小論文・志望理由書の指導及び推薦書作成研修会
加 納	◇：外部講師による外部模試解説講義、名古屋大学見学会 ◆：教育研究セミナー、難関大学入試動向研究会
本 巣 松 陽	◇：外部講師による小論文・志望理由書作成講座、面接指導、外部講師による学力向上講座

◇：生徒対象の取組 ◆：教員対象の取組

(イ) 進学指導連携事業

- 大学進学指導連絡協議会を中心に、高校間で連携を図り、効果的な入試対策とモチベーション向上を目指す事業を推進した。事業内容は以下のとおりである。

大学進学指導連絡協議会幹事校：岐阜、岐阜北、大垣北、関、可児、多治見北、恵那、斐太

令和元年度の主な事業内容
<ul style="list-style-type: none"> ○ 《拡充》外部講師による難関大学を目指す高校生のための入試研究会【希望生徒対象】 前年度までの東京大学、京都大学に、医学部医学科を加え、希望する3年生を対象に、学習対策(国・数・英)の講座を開講 ◇生徒・教員合わせて150名超の参加があり、更なる充実・発展を検討 ○ 《継続》東京大学・京都大学・名古屋大学の入試問題に関する教科別研究会【教員対象】 上記幹事校の教員が、難関大学の5教科入試問題を研究・分析し、発表・意見交流 ◇研究・分析の内容充実を目指し、実施方法と時期について検討した上で継続 ○ 《継続》指導力向上に向けた教員セミナー・研修会への参加【教員対象】 各校の若手教員を中心に、指導力向上を目的に予備校等が開催する研修会に参加 ◇若手教員にとって進路指導力向上だけでなく、授業実践にも参考となる点が多く継続
令和元年度のまとめ
<p>◎外部講師による難関大学を目指す高校生のための入試研究会は今年度も大変盛況であった。参加者の満足度は高く、受講後の学習に対するモチベーションの向上や学習方法の改善につながるなど大変有意義な事業となっており、実施方法や効果を検証して、今後更なる充実・発展を目指す。</p> <p>◎その他の事業も研究内容や研修効果を検証して、次年度の実施内容について検討する。</p>

(ウ) 県総合教育センターによる研修事業

- 本事業の開始にあたり、県総合教育センター講座に、新たな専門研修として、現状の大学入試問題の分析と大学入学者選抜改革による出題の傾向予想及びそれに対する効果的な学習・指導方法の在り方を研究・開発する講座を、平成29年度から開設し、進学指導に係る教員の指導力向上を目指す事業を行っている。令和元年度の事業内容は以下のとおりである。

令和元年度の事業内容
<ul style="list-style-type: none"> ○ 研究開発講座 大学入試問題研究 国語 ○ 研究開発講座 大学入試問題研究 数学 ○ 研究開発講座 大学入試問題研究 英語 <p>いずれの教科も、午前は、外部講師による新大学入試制度や求められる学力についての講演、午後は、指導主事等による大学入試問題の研究及び効果的な学習・指導方法についての演習</p>
令和元年度のまとめ
<p>◎新大学入試制度(外部検定試験を含む)について理解を深めるとともに、今後求められる学力に応じた大学入試問題を研究することで、授業改善の方向性を考えることができた。</p> <p>◎現在進学校に勤務していない若い教員も、大学入試の新しい動きを知り、具体的な入試問題を研究することで、現在勤務している学校における授業改善に生かすだけでなく、将来にわたって生きる教科の専門性を高めることができた。</p> <p>◎外部講師による講義と模擬授業を織り交ぜたワークショップにより、参加者は、教科書を使用しながら、大学入試で求められる力をどのように育成していくか学ぶことができた。</p>

◎大学入学者選抜改革の分析等は、参加者にとってだけでなく、学校現場にとって大変興味深い内容であるため、各学校において、研修内容をいかに共有してもらうかが今後の課題である。

(6) スーパーハイスクールセッション (SSS)

- 学んだ知識を社会と関連付けながら経験によって磨き、将来グローバル社会で活躍したり、科学技術の発達に貢献したりする人材を育成するため、県内のスーパーハイスクール指定校（16校に拡大）から意欲のある生徒が一堂に集まったり、テレビ会議システムを利用するなどして、学校の枠を越えて、自発的で自由なアイデアを出し合いながら、新たな課題解決と提言をまとめた。岐阜大学地域協学センターとの共催で実施した。

平成30年度～：岐阜、岐山、岐阜商業、岐阜農林、岐阜工業、大垣北、大垣東、関、多治見北、恵那、斐太、吉城

令和元年度～：岐阜北、長良、加納、可児

(7) 高等学校における演劇等ワークショップ事業

- 近年、コミュニケーションが苦手であることを原因として、学業や対人関係に行き詰まりを感じる生徒や、急速な社会のグローバル化に伴い日本語能力が十分でない外国人生徒が増加している。このような生徒に対し、演劇等の自己表現を通してコミュニケーション能力や自己表現力の向上を図るため、12校において、プロの演出家や俳優等を講師として招聘し、演劇表現ワークショップを実施した。

令和30年度～：山県、羽島、揖斐、不破、東濃、恵那南、

令和元年度～：郡上北、関有知、土岐紅陵、坂下、飛騨高山（山田キャンパス）
飛騨神岡

3 令和2年度以降の取組内容と今後の方向性

- 岐阜県教育振興基本計画（第3次岐阜県教育ビジョン）に基づき、令和2年度以降も、ふるさと教育の更なる推進を図る。

(1) 学校運営協議会設置の推進

- 地域住民等と学校が連携・協働して魅力ある高校づくりに取り組めるよう、学校運営協議会を設置する高校を、地域連携による活力ある高校づくり推進事業を行っているグループ1とグループ2の19校から34校に拡大する。

(2) 進学指導推進事業の拡大

- 県立高校における大学合格実績の更なる向上を図るため、進学指導重点校事業を6校から8校に拡大して実施する。

(ア) 進学指導重点校事業：指定校を8校に拡大して実施

平成29年度～：大垣南、加茂、可児、本巣松陽
平成30年度～：岐阜北、加納、
令和2年度～：多治見、中津

(イ) 進学指導連携事業：大学進学指導連絡協議会への支援を継続

連絡協議会幹事校：岐阜、岐阜北、大垣北、関、可児、多治見北、恵那、斐太

(ウ) 県総合教育センターによる専門研修事業を継続

(3) 高等学校における演劇等ワークショップ事業

- 演劇等の自己表現を通して、コミュニケーション能力や自己表現力の向上を図るため、2校の定時制課程を加えて実施する。

平成30年度～：山県、羽島、揖斐、不破、東濃、恵那南
令和元年度～：郡上北、関有知、土岐紅陵、坂下、飛騨高山（山田キャンパス）、
飛騨神岡
令和2年度～：華陽フロンティア（定時制）、飛騨高山（定時制）

(4) ICT環境の活用

- ICTワーキンググループを引き続き組織し、以下の内容について検討する。
 - ・授業への効果的活用の更なる推進及び効果の検討
 - ・ポートフォリオシステムや授業支援システムの検討等

(5) 遠隔教育の実証研究

- 少子化が進行する中、多様な学びのニーズに対応する方策の1つとして、小規模化が懸念される高校と、当該校を遠隔授業によりサポートする高校を指定し、遠隔授業による指導方法等の実証研究を行う。

令和2年度は、大型モニター、集音マイク、スピーカー等、遠隔授業を円滑に行うために必要な機材を整備し、特定の単元の授業や、期間を限定した授業を遠隔で実施する。

なお、令和3年度以降は、年間を通した遠隔授業を実施するとともに、評価や単位認定の方法、カリキュラム等について検討していく予定である。

郡上北	⇔	郡上	(普通科の小規模校と大規模校)
坂下	⇔	大垣桜	(専門学科の小規模校と大規模校)
飛騨神岡	⇔	飛騨高山	(総合学科の小規模校と複数学科を持つ地域最大規模校)
恵那南	⇔	土岐紅陵	(総合学科の小規模校同士)

(6) 県立高校の在り方についての方向性

- 岐阜県立高等学校活性化計画策定委員会から提出された「審議まとめ」では、小規模化が懸念される高校の活性化については、地域の主体的な関わりが不可欠として、地元市町村や企業などによる協議会を設置し、各校の活性化策を検討し実施する必要性と、再編統合に関する一定の基準を設ける必要性が示された。

これを受け、地元市町や企業関係者などで構成された協議会から、各地域の特性等を高校活性化に生かす様々な提案を受け、地域と一体となった活力ある高校づくりに関する取組を進めているところである。

一方、今後の県内高校入学者数は、令和10年度までは1万7千人から1万8千人で大きくは変化しない見込みであることから、当面は、再編統合を行うことなく活性化の取組を継続することで学校の小規模化に対応していくこととする。

しかし、令和11年度以降には、急激な生徒数の減少が見込まれることから、令和6年度からの5年間を計画期間とする県の次期教育振興基本計画の策定に向けては、活性化策の成果を十分に見極めながら、県立高校の在り方についての方向性を定める予定である。

4 令和3年度の入学者選抜及び学科改編等

(1) 令和3年度学科改編等

- 検討課題を踏まえ、令和3年度（現中学校3年生が入学する年度）に実施する学科改編等（令和2年3月発表）は以下のとおりである。

(ア) 商業科、情報科、生活産業科（家庭科及び福祉科）における学科改編

商業科、情報科及び生活産業科において、岐阜県地方産業教育審議会からの答申（平成30年3月）で整理された各専門学科における基本的な学びの領域に沿って、学科名称の統一を図るなど学科構成を整理する。

(イ) 単位制の導入

武義高校において、生徒の進路志望や適性に即した学びを可能とするため、普通科及びビジネス情報科に単位制を導入する。

学 校 名	学科改編の内容
岐阜城北	生活文化科を生活デザイン科に改編。
岐阜商業	全日制の課程において、国際コミュニケーション科をグローバルビジネス科に、会計システム科を会計科に、情報処理科をビジネス情報科に改編。また、定時制の課程において、商業科をビジネス科に改編。
揖 斐	生活環境科を生活デザイン科に改編。
大垣商業	全日制課程において、商業に関する学科を、総合ビジネス科及び会計科から、ビジネス科及びビジネス情報科に再編。情報科の募集を停止。また、定時制の課程において、商業科をビジネス科に改編。
大 垣 桜	生活文化科を生活デザイン科に改編。
海津明誠	情報処理科をビジネス情報科に、生活福祉科を生活デザイン科に改編。
武 義	商業に関する学科を、商業科及び情報処理科からビジネス情報科に再編。また、普通科及びビジネス情報科に単位制を導入。
関 有 知	生活福祉科を生活デザイン科に改編。
東濃実業	ビジネス管理科をビジネス科に、生活文化科を生活デザイン科に改編。
瑞 浪	生活福祉科を生活デザイン科に改編。
坂 下	生活文化科を生活デザイン科に改編。
飛驒高山	情報処理科をビジネス情報科に、生活文化科を生活デザイン科に改編。

商業科及び情報科の改編後の学科構成

は改編

学科 学びの領域	商業科				情報科
	マーケティング系	グローバル経済系	会計系	ビジネス情報系	
岐阜商業	流通ビジネス	グローバルビジネス	会計	ビジネス情報	—
岐阜各務野	ビジネス			—	情報
大垣商業	ビジネス			ビジネス情報	—
海津明誠	ビジネス情報				—
武 義	ビジネス情報				—
東濃実業	ビジネス			ビジネス情報	—
土岐商業	ビジネス			ビジネス情報	—
中津商業	ビジネス			ビジネス情報	—
益田清風	ビジネス情報				—
飛驒高山	ビジネス			ビジネス情報	—

生活産業科（家庭科及び福祉科）の改編後の学科構成

は改編

学科 学びの領域	家庭科				福祉科
	リビング系	ファッション系	フード系	ヒューマンサービス系	
岐阜城北	生活デザイン				—
岐阜各務野	—				福祉
揖 斐	生活デザイン				—
大 垣 桜	生活デザイン		服飾デザイン	食物	福祉
海津明誠	生活デザイン				—
関 有 知	生活デザイン				—
東濃実業	生活デザイン				—
瑞 浪	生活デザイン				—
坂 下	生活デザイン				福祉
飛驒高山	生活デザイン				—

(2) 県外募集実施校の変更

- 平成 30 年度入学者選抜から、県外からも意欲の高い生徒が入学することで、生徒同士が切磋琢磨できるなどの教育効果を期待して、県外募集を実施している。

令和 3 年度入学者選抜においては、特色のある教育や全国で活躍する部活動を実施している以下の 18 校で、県外からの募集を実施する。

1 県外募集実施校 18 校（新規 9 校、継続 9 校）

実施校（高校名）	募集分野
【新】 羽 島 北	フェンシング
【新】 岐阜総合学園	ホッケー（男子）
【新】 岐 阜 城 北	硬式野球
【新】 岐 阜 商 業	硬式野球
【新】 岐 南 工 業	自転車競技
【新】 岐阜各務野	ホッケー（女子）
【新】 大 垣 南	フェンシング
【新】 大 垣 商	体操
【新】 加 茂	ボート
加 納	音楽
海 津 明 誠	ヨット
関 有 知	ライフル射撃
多 治 見 工 業	セラミック
恵 那 農 業	ふるさと教育（食、花と緑）
坂 下	福祉
益 田 清 風	ふるさと教育（地域文化伝承）
高 山 工 業	建築インテリア
飛 騨 神 岡	ロボット

2 募集人員

県外募集の募集人員は入学定員とは別に、次のように定めるものとする。

- ・スポーツ分野については、県外募集による入学者の 1～3 年生の合計が、対象競技種目の登録選手総数の半数を超えない範囲内で、各校において毎年度定める。
- ・その他の分野については、別に決定する。

※「県外募集実施校に係る入学者の選抜」について、募集学科、検査内容や選抜方法等を含めた選抜の概要は、令和 2 年 5 月末日までに県教育委員会において発表予定。

(3) 令和3年度県立高等学校入学者選抜

1 日程

- 第一次選抜（全日制の課程、定時制の課程）
 - 出願期間 令和3年2月16日（火）～2月19日（金）正午
 - 変更期間 令和3年2月22日（月）～2月26日（金）正午
※2月23日（火・祝）は除く。
 - 検査期日 令和3年3月9日（火）
※一部の高等学校では10日（水）にも実施
 - 追検査期日 令和3年3月14日（日）
※一部の高等学校では15日（月）にも実施
 - 合格発表・第二次選抜募集人員発表 令和3年3月17日（水）

- 連携型選抜（揖斐高等学校、郡上北高等学校、八百津高等学校、飛騨神岡高等学校で実施）
※連携型選抜は、上記の高等学校において、それぞれが連携する中学校を
令和3年3月に卒業する見込みの生徒を対象として実施
 - 出願期間 令和3年2月16日（火）～2月19日（金）正午
 - 変更期間 令和3年2月22日（月）～2月26日（金）正午
※2月23日（火・祝）は除く。
 - 検査期日 令和3年3月9日（火）、10日（水）
※実施日については、各連携型高等学校において決定
 - 追検査期日 令和3年3月14日（日）、15日（月）
※実施日については、各連携型高等学校において決定
 - 合格発表 令和3年3月17日（水）

- 第二次選抜（全日制の課程、定時制の課程）
 - 出願期日 令和3年3月18日（木）
 - 変更期日 令和3年3月19日（金）
 - 検査期日 令和3年3月22日（月）
 - 合格発表 令和3年3月24日（水）

- 通信制の課程の選抜（華陽フロンティア高等学校、飛騨高山高等学校）
 - 出願期間 令和3年3月3日（水）～3月25日（木）のうち、
高等学校が指定した日
 - 変更期日 設けない
 - 検査期日 令和3年3月27日（土）
 - 結果通知 令和3年3月29日（月）

<参考>

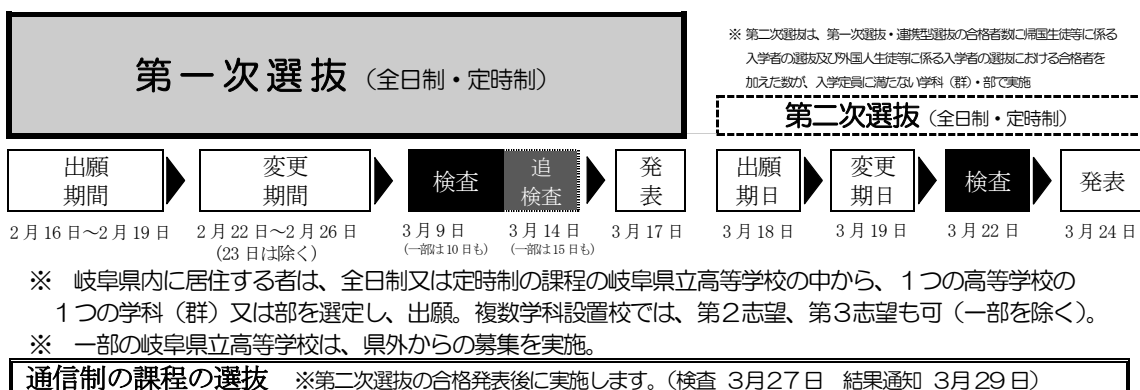
令和3年度岐阜県立高等学校入学者選抜関係日程

月	日	曜	入学者選抜関係事項	月	日	曜	入学者選抜関係事項
2	1	月		3	1	月	
	2	火			2	火	
	3	水			3	水	
	4	木			4	木	
	5	金			5	金	
	6	土			6	土	
	7	日			7	日	
	8	月			8	月	
	9	火			9	火	第一次選抜、連携型選抜
	10	水			10	水	(第一次選抜、連携型選抜)
	11	木	(建国記念の日)		11	木	
	12	金			12	金	
	13	土			13	土	
	14	日			14	日	第一次選抜、連携型選抜 追検査
	15	月			15	月	(第一次選抜、連携型選抜 追検査)
	16	火	↑ 第一次選抜、連携型選抜出願期間 ↓ (受付締切は正午)		16	火	
	17	水			17	水	第一次選抜、連携型選抜合格発表 第二次選抜募集人員発表
	18	木			18	木	第二次選抜出願期日
	19	金			19	金	第二次選抜出願変更期日
	20	土			20	土	(春分の日)
	21	日			21	日	
	22	月	↑ 第一次選抜、連携型選抜出願変更期間		22	月	第二次選抜
	23	火	⋮ (天皇誕生日)		23	火	
	24	水			24	水	第二次選抜合格発表
	25	木			25	木	
	26	金	↓ (受付締切は正午)		26	金	
	27	土			27	土	※通信制の課程の選抜
	28	日			28	日	
			29	月	※通信制の課程の選抜結果通知		
			30	火			
			31	水			

※ 通信制の課程の出願期間：令和3年3月3日（水）～3月25日（木）のうち高等学校が指定した日

2 概要

◆ 制度全体の仕組み



第 一 次 選 抜

【全日制の課程】

検査 内容

✓ 標準検査を実施します。

- 標準検査 出願者全員が受検する検査

<標準検査>の内容

● 学力検査 (国語・社会・数学・理科・英語)

- 検査時間は、1教科50分

● 実技検査 (音楽科、美術科で実施)

- 面接 (各高等学校で実施の有無を決定)

※ 学科等の専門領域における実技能力や部活動等の実績を特に重視して評価する学科(群)では、希望者に対して標準検査に加えて、独自検査を実施します。

- 独自検査 面接、小論文、実技検査、自己表現の中から高等学校が指定する検査

選抜 方法

✓ 調査書と標準検査の結果を総合的に審査します。

- 調査書の評定と学力検査の結果の比率については、7:3～3:7の範囲となるよう各高等学校で決定

※ 独自検査を実施した場合には、調査書と標準検査及び独自検査の結果を総合的に審査し、入学定員の30%を上限として、合格者を決定します。

【定時制の課程】

<検査内容>

● 全ての高等学校で実施する検査

- 高等学校が指定する学力に関する検査
- 面接

○ 高等学校ごとに実施の有無を決定する検査

- 小論文、実技検査、自己表現の中から高等学校が指定する検査

第 二 次 選 抜

- ✓ 第一次選抜・連携型選抜の合格者数に帰国生徒等に係る入学者の選抜及び外国人生徒等に係る入学者の選抜における合格者数を加えた数が、入学定員に満たない学科(群)・部で実施します。
- ✓ 全員に面接を実施します。
- ✓ 面接に加えて、学力検査(実施教科は、国語、数学、英語から各高等学校が指定)、小論文を実施する高等学校もあります。(音楽科及び美術科では実技検査を実施)

※詳細は岐阜県立高等学校入学者選抜要項に記載します。

資料編

- ・ 参考資料 1 中学校卒業予定者数の推移（全体／地区別）
- ・ 参考資料 2 高校におけるふるさと教育ガイド（一部抜粋）
- ・ 参考資料 3 県外募集に関するチラシ
- ・ 参考資料 4 県外募集のHPの紹介
- ・ 参考資料 5 令和元年度「授業におけるICT活用のアンケート」（抜粋）

参考資料 1

中学校卒業予定者数の推移

< 全県 >

令和元年5月1日現在 < 学校基本調査 >

高校入学年月 学年	H31.3 高1	R2.3 中3	R3.3 中2	R4.3 中1	R5.3 小6	R6.3 小5	R7.3 小4	R8.3 小3	R9.3 小2	R10.3 小1
岐阜	7,795 前年比 H31.3比	7,404 ▲ 391 ▲ 391	7,312 ▲ 92 ▲ 483	7,490 178 ▲ 305	7,362 ▲ 128 ▲ 433	7,464 102 ▲ 331	7,126 ▲ 338 ▲ 669	7,236 110 ▲ 559	6,931 ▲ 305 ▲ 864	6,932 1 ▲ 863
西濃	3,611 前年比 H31.3比	3,498 ▲ 113 ▲ 113	3,447 ▲ 51 ▲ 164	3,446 ▲ 1 ▲ 165	3,299 ▲ 147 ▲ 312	3,366 67 ▲ 245	3,218 ▲ 148 ▲ 393	3,198 ▲ 20 ▲ 413	3,160 ▲ 38 ▲ 451	3,069 ▲ 91 ▲ 542
美濃	1,399 前年比 H31.3比	1,354 ▲ 45 ▲ 45	1,307 ▲ 47 ▲ 92	1,348 41 ▲ 51	1,351 3 ▲ 48	1,304 ▲ 47 ▲ 95	1,329 25 ▲ 70	1,290 ▲ 39 ▲ 109	1,353 63 ▲ 46	1,197 ▲ 156 ▲ 202
可茂	2,265 前年比 H31.3比	2,154 ▲ 111 ▲ 111	2,056 ▲ 98 ▲ 209	2,161 105 ▲ 104	2,105 ▲ 56 ▲ 160	2,064 ▲ 41 ▲ 201	2,047 ▲ 17 ▲ 218	2,116 69 ▲ 149	2,089 ▲ 27 ▲ 176	2,059 ▲ 30 ▲ 206
東濃	3,020 前年比 H31.3比	2,950 ▲ 70 ▲ 70	2,781 ▲ 169 ▲ 239	2,840 59 ▲ 180	2,989 149 ▲ 31	2,790 ▲ 199 ▲ 230	2,719 ▲ 71 ▲ 301	2,777 58 ▲ 243	2,716 ▲ 61 ▲ 304	2,654 ▲ 62 ▲ 366
飛驒	1,373 前年比 H31.3比	1,281 ▲ 92 ▲ 92	1,260 ▲ 21 ▲ 113	1,229 ▲ 31 ▲ 144	1,243 14 ▲ 130	1,310 67 ▲ 63	1,238 ▲ 72 ▲ 135	1,171 ▲ 67 ▲ 202	1,201 30 ▲ 172	1,116 ▲ 85 ▲ 257
県全体	19,463 前年比 H31.3比	18,641 ▲ 822 ▲ 822	18,163 ▲ 478 ▲ 1,300	18,514 351 ▲ 949	18,349 ▲ 165 ▲ 1,114	18,298 ▲ 51 ▲ 1,165	17,677 ▲ 621 ▲ 1,786	17,788 111 ▲ 1,675	17,450 ▲ 338 ▲ 2,013	17,027 ▲ 423 ▲ 2,436

<岐阜地区>

令和元年5月1日現在 <学校基本調査>

高校入学年月 学年	H31.4 高1	R2.4 中3	R3.4 中2	R4.4 中1	R5.4 小6	R6.4 小5	R7.4 小4	R8.4 小3	R9.4 小2	R10.4 小1
岐阜市	3,937 前年比 H31.3比	3,748 ▲189 ▲189	3,690 ▲58 ▲247	3,739 49 ▲198	3,527 ▲212 ▲410	3,672 145 ▲265	3,479 ▲193 ▲458	3,557 78 ▲380	3,335 ▲222 ▲602	3,420 85 ▲517
羽島市	679 前年比 H31.3比	674 ▲5 ▲5	584 ▲90 ▲95	638 54 ▲41	651 13 ▲28	589 ▲62 ▲90	662 73 ▲17	614 ▲48 ▲65	593 ▲21 ▲86	591 ▲2 ▲88
各務原市	1,439 前年比 H31.3比	1,316 ▲123 ▲123	1,293 ▲23 ▲146	1,374 81 ▲65	1,439 65 0	1,405 ▲34 ▲34	1,340 ▲65 ▲99	1,320 ▲20 ▲119	1,294 ▲26 ▲145	1,320 26 ▲119
山県市	255 前年比 H31.3比	231 ▲24 ▲24	228 ▲3 ▲27	227 ▲1 ▲28	196 ▲31 ▲59	223 27 ▲32	200 ▲23 ▲55	195 ▲5 ▲60	192 ▲3 ▲63	180 ▲12 ▲75
瑞穂市	545 前年比 H31.3比	489 ▲56 ▲56	584 95 39	553 ▲31 8	565 12 20	621 56 76	547 ▲74 2	625 78 80	599 ▲26 54	561 ▲38 16
本巣市	343 前年比 H31.3比	360 17 17	392 32 49	358 ▲34 15	374 16 31	331 ▲43 ▲12	316 ▲15 ▲27	290 ▲26 ▲53	310 20 ▲33	291 ▲19 ▲52
本巣郡	181 前年比 H31.3比	181 0 0	177 ▲4 ▲4	180 3 ▲1	183 3 2	199 16 18	162 ▲37 ▲19	187 25 6	169 ▲18 ▲12	160 ▲9 ▲21
羽島郡	416 前年比 H31.3比	405 ▲11 ▲11	364 ▲41 ▲52	421 57 5	427 6 11	424 ▲3 8	420 ▲4 4	448 28 32	439 ▲9 23	409 ▲30 ▲7
岐阜地区	7,795 前年比 H31.3比	7,404 ▲391 ▲391	7,312 ▲92 ▲483	7,490 178 ▲305	7,362 ▲128 ▲433	7,464 102 ▲331	7,126 ▲338 ▲669	7,236 110 ▲559	6,931 ▲305 ▲864	6,932 1 ▲863

<西濃地区>

令和元年5月1日現在 <学校基本調査>

高校入学年月 学年	H31.3 高1	R2.3 中3	R3.3 中2	R4.3 中1	R5.3 小6	R6.3 小5	R7.3 小4	R8.3 小3	R9.3 小2	R10.3 小1
大垣市	1,443 前年比 H31.3比	1,415 ▲28 ▲28	1,428 13 ▲15	1,362 ▲66 ▲81	1,367 5 ▲76	1,436 69 ▲7	1,365 ▲71 ▲78	1,372 7 ▲71	1,379 7 ▲64	1,365 ▲14 ▲78
海津市	339 前年比 H31.3比	301 ▲38 ▲38	267 ▲34 ▲72	312 45 ▲27	263 ▲49 ▲76	289 26 ▲50	262 ▲27 ▲77	272 10 ▲67	240 ▲32 ▲99	230 ▲10 ▲109
養老郡	268 前年比 H31.3比	280 12 12	255 ▲25 ▲13	253 ▲2 ▲15	248 ▲5 ▲20	242 ▲6 ▲26	254 12 ▲14	229 ▲25 ▲39	231 2 ▲37	202 ▲29 ▲66
不破郡	332 前年比 H31.3比	307 ▲25 ▲25	342 35 10	335 ▲7 3	315 ▲20 ▲17	311 ▲4 ▲21	297 ▲14 ▲35	309 12 ▲23	283 ▲26 ▲49	248 ▲35 ▲84
安八郡	512 前年比 H31.3比	480 ▲32 ▲32	491 11 ▲21	502 11 ▲10	462 ▲40 ▲50	465 3 ▲47	438 ▲27 ▲74	444 6 ▲68	427 ▲17 ▲85	459 32 ▲53
揖斐郡	717 前年比 H31.3比	715 ▲2 ▲2	664 ▲51 ▲53	682 18 ▲35	644 ▲38 ▲73	623 ▲21 ▲94	602 ▲21 ▲115	572 ▲30 ▲145	600 28 ▲117	565 ▲35 ▲152
西濃地区	3,611 前年比 H31.3比	3,498 ▲113 ▲113	3,447 ▲51 ▲164	3,446 ▲1 ▲165	3,299 ▲147 ▲312	3,366 67 ▲245	3,218 ▲148 ▲393	3,198 ▲20 ▲413	3,160 ▲38 ▲451	3,069 ▲91 ▲542

<美濃地区>

令和元年5月1日現在 <学校基本調査>

高校入学年月 学年	H31.4 高1	R2.4 中3	R3.4 中2	R4.4 中1	R5.4 小6	R6.4 小5	R7.4 小4	R8.4 小3	R9.4 小2	R10.4 小1
関市	878 前年比 H31.3比	828 ▲ 50 ▲ 50	802 ▲ 26 ▲ 76	798 ▲ 4 ▲ 80	834 36 ▲ 44	817 ▲ 17 ▲ 61	846 29 ▲ 32	801 ▲ 45 ▲ 77	827 26 ▲ 51	727 ▲ 100 ▲ 151
美濃市	167 前年比 H31.3比	141 ▲ 26 ▲ 26	167 26 0	171 4 4	172 1 5	149 ▲ 23 ▲ 18	151 2 ▲ 16	169 18 2	171 2 4	144 ▲ 27 ▲ 23
郡上市	354 前年比 H31.3比	385 31 31	338 ▲ 47 ▲ 16	379 41 25	345 ▲ 34 ▲ 9	338 ▲ 7 ▲ 16	332 ▲ 6 ▲ 22	320 ▲ 12 ▲ 34	355 35 1	326 ▲ 29 ▲ 28
北部 (内数)	(187) 前年比 H31.3比	(221) (34) (34)	(186) (▲35) (▲1)	(197) (11) (10)	(172) (▲25) (▲15)	(190) (18) (3)	(153) (▲37) (▲34)	(170) (17) (▲17)	(177) (7) (▲10)	(162) (▲15) (▲25)
南部 (内数)	(167) 前年比 H31.3比	(164) (▲3) (▲3)	(152) (▲12) (▲15)	(182) (30) (15)	(173) (▲9) (6)	(148) (▲25) (▲19)	(179) (31) (12)	(150) (▲29) (▲17)	(178) (28) (11)	(164) (▲14) (▲3)
美濃地区	1,399 前年比 H31.3比	1,354 ▲ 45 ▲ 45	1,307 ▲ 47 ▲ 92	1,348 41 ▲ 51	1,351 3 ▲ 48	1,304 ▲ 47 ▲ 95	1,329 25 ▲ 70	1,290 ▲ 39 ▲ 109	1,353 63 ▲ 46	1,197 ▲ 156 ▲ 202

<可茂地区>

令和元年5月1日現在 <学校基本調査>

高校入学年月 学年	H31.4 高1	R2.4 中3	R3.4 中2	R4.4 中1	R5.4 小6	R6.4 小5	R7.4 小4	R8.4 小3	R9.4 小2	R10.4 小1
美濃加茂市	595 前年比 H31.3比	578 ▲ 17 ▲ 17	545 ▲ 33 ▲ 50	560 15 ▲ 35	611 51 16	567 ▲ 44 ▲ 28	608 41 13	599 ▲ 9 4	581 ▲ 18 ▲ 14	583 2 ▲ 12
可児市	1,019 前年比 H31.3比	961 ▲ 58 ▲ 58	975 14 ▲ 44	988 13 ▲ 31	957 ▲ 31 ▲ 62	961 4 ▲ 58	888 ▲ 73 ▲ 131	970 82 ▲ 49	957 ▲ 13 ▲ 62	936 ▲ 21 ▲ 83
加茂郡	480 前年比 H31.3比	448 ▲ 32 ▲ 32	388 ▲ 60 ▲ 92	443 55 ▲ 37	394 ▲ 49 ▲ 86	365 ▲ 29 ▲ 115	399 34 ▲ 81	383 ▲ 16 ▲ 97	397 14 ▲ 83	381 ▲ 16 ▲ 99
可児郡	171 前年比 H31.3比	167 ▲ 4 ▲ 4	148 ▲ 19 ▲ 23	170 22 ▲ 1	143 ▲ 27 ▲ 28	171 28 0	152 ▲ 19 ▲ 19	164 12 ▲ 7	154 ▲ 10 ▲ 17	159 5 ▲ 12
可茂地区	2,265 前年比 H31.3比	2,154 ▲ 111 ▲ 111	2,056 ▲ 98 ▲ 209	2,161 105 ▲ 104	2,105 ▲ 56 ▲ 160	2,064 ▲ 41 ▲ 201	2,047 ▲ 17 ▲ 218	2,116 69 ▲ 149	2,089 ▲ 27 ▲ 176	2,059 ▲ 30 ▲ 206

<東濃地区>

令和元年5月1日現在 <学校基本調査>

高校入学年月 学年	H31.4 高1	R2.4 中3	R3.4 中2	R4.4 中1	R5.4 小6	R6.4 小5	R7.4 小4	R8.4 小3	R9.4 小2	R10.4 小1
多治見市	985 前年比 H31.3比	967 ▲18 ▲18	892 ▲75 ▲93	925 33 ▲60	952 27 ▲33	938 ▲14 ▲47	927 ▲11 ▲58	887 ▲40 ▲98	911 24 ▲74	854 ▲57 ▲131
土岐市	464 前年比 H31.3比	501 37 37	456 ▲45 ▲8	466 10 2	555 89 91	472 ▲83 8	463 ▲9 ▲1	490 27 26	496 6 32	434 ▲62 ▲30
瑞浪市	367 前年比 H31.3比	364 ▲3 ▲3	354 ▲10 ▲13	343 ▲11 ▲24	291 ▲52 ▲76	292 1 ▲75	271 ▲21 ▲96	291 20 ▲76	286 ▲5 ▲81	282 ▲4 ▲85
東濃西部	1,816 前年比 H31.3比	1,832 16 16	1,702 ▲130 ▲114	1,734 32 ▲82	1,798 64 ▲18	1,702 ▲96 ▲114	1,661 ▲41 ▲155	1,668 7 ▲148	1,693 25 ▲123	1,570 ▲123 ▲246
恵那市	465 前年比 H31.3比	415 ▲50 ▲50	424 9 ▲41	417 ▲7 ▲48	457 40 ▲8	408 ▲49 ▲57	429 21 ▲36	404 ▲25 ▲61	398 ▲6 ▲67	430 32 ▲35
旧惠南地区 (内数)	(129) 前年比 H31.3比	(119) (▲10) (▲10)	(137) (18) (8)	(117) (▲20) (▲12)	(133) (16) (4)	(136) (3) (7)	(129) (▲7) (0)	(114) (▲15) (▲15)	(120) (6) (▲9)	(123) (3) (▲6)
中津川市	739 前年比 H31.3比	703 ▲36 ▲36	655 ▲48 ▲84	689 34 ▲50	734 45 ▲5	680 ▲54 ▲59	629 ▲51 ▲110	705 76 ▲34	625 ▲80 ▲114	654 29 ▲85
旧惠北地区 (内数)	(230) 前年比 H43546年比	(219) (▲11) (▲11)	(219) (0) (▲11)	(207) (▲12) (▲23)	(203) (▲4) (▲27)	(217) (14) (▲13)	(195) (▲22) (▲35)	(192) (▲3) (▲38)	(183) (▲9) (▲47)	(170) (▲13) (▲60)
東濃東部	1,204 前年比 H43546年比	1,118 ▲86 ▲86	1,079 ▲39 ▲125	1,106 27 ▲98	1,191 85 ▲13	1,088 ▲103 ▲116	1,058 ▲30 ▲146	1,109 51 ▲95	1,023 ▲86 ▲181	1,084 61 ▲120
東濃地区	3,020 前年比 H43546年比	2,950 ▲70 ▲70	2,781 ▲169 ▲239	2,840 59 ▲180	2,989 149 ▲31	2,790 ▲199 ▲230	2,719 ▲71 ▲301	2,777 58 ▲243	2,716 ▲61 ▲304	2,654 ▲62 ▲366

<飛騨地区>

令和元年5月1日現在 <学校基本調査>

高校入学年月 学年	H31.4 高1	R2.4 中3	R3.4 中2	R4.4 中1	R5.4 小6	R6.4 小5	R7.4 小4	R8.4 小3	R9.4 小2	R10.4 小1
高山市	863 前年比 H31.3比	798 ▲65 ▲65	791 ▲7 ▲72	805 14 ▲58	797 ▲8 ▲66	813 16 ▲50	783 ▲30 ▲80	760 ▲23 ▲103	753 ▲7 ▲110	722 ▲31 ▲141
飛騨市	244 前年比 H31.3比	196 ▲48 ▲48	192 ▲4 ▲52	176 ▲16 ▲68	181 5 ▲63	205 24 ▲39	173 ▲32 ▲71	160 ▲13 ▲84	185 25 ▲59	162 ▲23 ▲82
旧神岡町 (内数)	(59) 前年比 H31.3比	(54) (▲5) (▲5)	(57) (3) (▲2)	(45) (▲12) (▲14)	(44) (▲1) (▲15)	(60) (16) (1)	(41) (▲19) (▲18)	(45) (4) (▲14)	(44) (▲1) (▲15)	(42) (▲2) (▲17)
下呂市	254 前年比 H31.3比	275 21 21	261 ▲14 7	231 ▲30 ▲23	255 24 1	284 29 30	268 ▲16 14	243 ▲25 ▲11	249 6 ▲5	215 ▲34 ▲39
大野郡	12 前年比 H31.3比	12 0 0	16 4 4	17 1 5	10 ▲7 ▲2	8 ▲2 ▲4	14 6 2	8 ▲6 ▲4	14 6 2	17 3 5
飛騨地区	1,373 前年比 H31.3比	1,281 ▲92 ▲92	1,260 ▲21 ▲113	1,229 ▲31 ▲144	1,243 14 ▲130	1,310 67 ▲63	1,238 ▲72 ▲135	1,171 ▲67 ▲202	1,201 30 ▲172	1,116 ▲85 ▲257

高校におけるふるさと教育ガイド（一部抜粋）

岐阜県立高校は「ふるさと教育」を通して

探 究 的 な 学 び

を推進します



新大学入試制度
に対応!

進学・就職サポート
充実!

「ふるさと岐阜」が好きになる
県立高校で学びませんか?

高校での「ふるさと教育」は、生徒がグローバルな視野をもちつつ地域の魅力を知り、地域の方々と協働しながら地域課題の解決を目指す「探究的な学び」を推進することで、生徒の進路実現を図ろうとするものです。





新しい時代の「探究的な学び」を通して

「ふるさと岐阜」を愛し、進学に強い、就職に強い県立高校を目指します!!

 **新大学入試制度に対応します。〈高大接続改革〉**

 **進学・就職サポートを充実させます。**

新大学入試が始まります!

- ◆令和2年度大学入試から、基礎的・基本的な学力に加えて、思考力・判断力・表現力を重視した問題が多く出題されるようになります。
- ◆国立大学では推薦・AO入試の入学定員を3割まで引き上げるといった動き(※1)があります。

(平成30年度入試段階においては入学者の15.8%が推薦・AO入試による合格者(※2))

多くの企業ではコミュニケーション能力や創造力のある人材を求めています!

- ◆多くの企業においては、多様な価値観の人たちによるプロジェクトチームの中で、お互いにアイデアを出し合って、新しい価値を創造できるような人間性溢れる人材を求めています。

これらの力を身に付けるためには「**探究的な学び**」が重要!

県立高校では「ふるさと教育」を通じて「探究的な学び」を推進します!

- ◆こうした高校教育を取り巻く環境の変化に対応するため、県教育委員会では、グローバルな視野をもちつつ、地域社会の活性化に貢献できる人材を育成する目的で、「ふるさと教育」としてすべての県立高校で高校の特色に応じた「探究的な学び」を推進することにしました。
- ◆生徒が「ふるさと岐阜」と深く結びついた地域課題に主体的に取り組み、身に付けた知識・技能を活用して、多様な考えを認め合いながら課題解決を目指すとともに、他者に分かりやすくプレゼンテーションできるような力を育成する授業や活動を実践します。
- ◆新学習指導要領においても、ICTを活用した探究的な学習活動が重要視されています。

その基盤として

ICT環境を整備します!

- ◆すべての普通教室等にプロジェクター、実物投影機、タブレット型ノートPC等を整備します。

さらに

進路支援をより充実させます!

- ◆地域別に「地域創生キャリアプランナー」を配置し、生徒の進路希望に合わせたサポートを充実させます。

ぜひ県立高校で一緒に学びましょう!



※1 一般社団法人 国立大学協会HP「国立大学の将来ビジョンに関するアクションプラン」

※2 文部科学省HP「平成30年度国公立大学・短期大学入学者選抜実施状況の概要」



高校の特色に応じた「探究的な学び」

県立高校だからこそ、地域と密接に連携できます!!

グローバルな視点で課題を探究する高校

対象校

岐阜、岐阜北、長良、岐山、加納、岐阜商業、岐阜農林、大垣北、大垣東、関、可児、多治見北、恵那、斐太、吉城

地域の課題等をグローバルな視点で捉え、海外の関係機関等と連携して、課題を発見・解決する探究的な学びを推進します。知的好奇心やプレゼンテーション能力を育み、幅広い学力の向上を通して新大学入試制度に対応します。

取組事例

- ・ 地元企業と連携した海外フィールドワークを実施
- ・ グローバル規模で活躍する講師による講演会を実施



英語でプレゼン

地域に密着した課題を探究する高校

対象校

羽島北、各務原、各務原西、本巣松陽、羽島、大垣南、大垣西、郡上、武義、加茂、多治見、中津、益田清風

高校と地域の連携を通して、生徒が地域の魅力を知り、地域に密着した課題を発見・解決する探究的な学びを推進します。ふるさとへの誇りや愛着とともに、プレゼンテーション能力を育み、学力の向上を通して新大学入試制度に対応します。

取組事例

- ・ 市長や大学教授等による講演会を実施し、地域の魅力と課題を把握
- ・ グループ別に地域のフィールドワークを行い、地域課題を探究



課題を探究

地域とともに活性化する魅力ある高校

対象校

山県、揖斐、池田、不破、海津明誠、郡上北、関有知、八百津、東濃、瑞浪、土岐紅陵、恵那南、恵那農業、坂下、中津商業、中津川工業、高山工業、吉城、飛騨神岡

高校と地域の連携により、互いにアイデアを出し合い、地域課題を発見・解決する学びを推進します。地元企業等で即戦力となるような人材を育成するとともに、進学においても推薦・AO入試等にも対応できる学力を身に付けます。

取組事例

- ・ 地元企業と連携して「デュアルシステム(企業実習)」を実施
- ・ 市、地元企業と連携協定を締結し、6次産業学習(生産→加工→販売)を実施



地域での学び

地域の企業等と連携した専門高校

対象校

岐阜総合学園、岐阜城北、岐阜商業、岐南工業、岐阜各務野、岐阜農林、岐阜工業、大垣養老、大垣商業、大垣工業、大垣桜、海津明誠、郡上、武義、関有知、加茂農林、東濃実業、可児工業、多治見工業、瑞浪、土岐商業、恵那農業、坂下、中津商業、中津川工業、益田清風、飛騨高山、高山工業

地域産業における各方面の専門家から直接学ぶ機会を増やし、地域と連携した実践的な学びを推進します。地域産業の担い手として、地元企業など最先端の現場で即戦力となるような技術や人間性を学びます。

取組事例

- ・ 「まくわうり」の地域ブランド化に向けた研究
- ・ 地元企業や研究機関と連携し、最先端技術の習得



実践的な学び

※高校別事業については、裏面の「令和元年度県立高校別事業一覧」をご覧ください。



すべての県立高校の普通教室等に ICT環境を整備

「ふるさと教育」の基盤としての学習環境を整え、「探究的な学び」を推進します。

令和元年度 高校の授業が変わる

電子黒板機能付き短焦点プロジェクター +ホワイトボード張替

- 映像等でメリハリのある授業を展開
- 黒板に比べ粉塵の少ない環境を提供



実物投影機(書画カメラ)

- 資料等をわかりやすく提示
- 実験や実演を全体で共有



タブレット型ノートPC+無線LAN

- 調べ学習が充実
- グループの考えを全体で共有



教室に
エアコンも整備!
快適な温度で
学習できる!



いつでも仲間と意見を交流・共有し、プレゼンテーションできる環境を実現!

岐阜県では、全ての意志ある生徒が安心して教育を受けられるよう、授業料や教育費の負担軽減のための各種支援制度を実施しています。 ※金額等については、現時点のものであり、変更の可能性があります。

高等学校等就学支援金

国の就学支援金によって、公立全日制の場合、条件によっては最大年間 118,800 円が助成されます。

高校生等奨学給付金

教科書用品等の授業料以外の教育費の負担を軽減するため、非課税世帯の生徒に対し、県から奨学給付金が支給されます。条件によっては、最大年間 129,700 円が助成されます。

<支給条件>

- 保護者等が岐阜県内に在住していること ● 高等学校等に在学していること 等

	生活保護受給世帯	非課税世帯(第1子)	非課税世帯(第2子以降)
通信制以外(公立高校)	32,300円	82,700円	129,700円
通信制(公立高校)		36,500円	

※非課税世帯(第2子以降)とは、当該高校生以外に、15歳(中学生を除く)以上23歳未満の扶養されている兄弟姉妹がいる世帯の場合をいいます。

上記の他、岐阜県では次のような奨学金制度(貸付型・申請条件有)を設けています。

- ▶ 岐阜県選奨生奨学金(最大月額 40,000 円) ▶ 岐阜県高等学校奨学金(最大月額 28,000 円)
- ▶ 岐阜県子育て支援奨学金(最大月額 28,000 円)

これら制度に関する問合せ先 岐阜県教育委員会 教育財務課 管理経理係 TEL.058-272-8734(直通)

● このリーフレットの内容に関するお問い合わせは下記まで。●

岐阜県教育委員会事務局 教育総務課 教育企画係

TEL : 058-272-8729(直通) Email : c17765@pref.gifu.lg.jp



		ふるさと教育関連（新規・継続・拡充）事業											県立高校の特色づくり（継続・拡充）				その他の指定事業
		地域共創フラッグシブ	スーパーグローバル	理数教育フラッグシブ	スーパープロフェッショナル	地域課題探究型学習	地域課題探究型学習	地域産品の活用	地域産品の活用	地域産品の活用	地域産品の活用	地域産品の活用	関連国事業	進学指導重点校	少人数コミュニケーション	演習型授業	その他の指定事業
高校名	令和元年度設置大学科	新規	継続	継続	継続	新規	拡充	新規	新規	新規	新規	新・継	継続	継続	拡充	新・継	
岐阜	普			○													
岐阜北	普	○												○			
長良	普	○															
岐山	普・理			○													
加納	普・音・美	○												○			
羽島北	普				○												
岐阜総合	総									○							
岐阜城北	生・総									○	Ⅳ	3					
岐阜商業	商・(定)		○							○		1					
岐阜工業	工									○	Ⅰ	5					
各務原	普				○												
各務原西	普				○												
岐阜各務野	商・情・福									○	Ⅲ						
本巣松陽	普				○									○			
岐阜農林	農			○	★								3				
山県	普						○	○							○		
羽島	普				○			○							○		
岐阜工業	工・(定)												E★				
揖斐	普・生						○	○							○	B★	
池田	普																
大垣北	普	○															
大垣南	普				○									○			
大垣東	普・理			○													
大垣西	普				○											A	
大垣養老	農・総									△	Ⅲ						
大垣商業	商・情・(定)									△	Ⅳ	3					
大垣工業	工・(定)									△	Ⅳ	2					
大垣桜	生・福									△	Ⅰ	1				B★	
不破	普						○	○						○	○		
海津明誠	普・商・生						○	○			Ⅲ						
郡上北	普							○	○						○		
郡上	普・農				○					○	Ⅳ	2					
武義	普・商				○					○	Ⅱ					C	
関有知	普・生						○	○			Ⅱ				○		
関	普		○														
加茂	普・理・(定)				○			○	定					○			
加茂農林	農							○	○	○	Ⅱ	4					
八百津	普						○	○							○	○	
東濃	普						○	○									
東濃実業	商・生									○	Ⅲ	4.5					
可児	普	○												○			
可児工業	工									○	Ⅱ	1				B★	
多治見	普				○												
多治見北	普		○														
多治見工業	工									△	Ⅲ						
瑞浪	普・生						○	○			Ⅱ	5					
土岐紅陵	総						○	○							○		
土岐商業	商									△	Ⅰ	2					
恵那	普・理			★													
恵那南	総						○	○							○		
恵那農業	農						○	○			Ⅱ	5					
中津	普・(定)				○												
坂下	普・生・福						○	○			Ⅳ				○		
中津商業	商						○	○		△	Ⅱ	4					
中津川工業	工						○	○		△	Ⅲ	4					
益田清風	普・商・総				○					△	Ⅱ						
斐太	普		○														
飛騨高山	普・商・生・農(定・通)									△	Ⅰ	1.2			○		
高山工業	工						○	○			Ⅳ	3					
吉城	普・理			○			○	○					F★				
飛騨神岡	総						○	○							○		
華陽フロンティア	(ⅠⅡⅢ部定・通)							○							○		
東濃フロンティア	(ⅠⅡⅢ部定)							○									
		5	4	6	1	13	19	19	20	24	18	2	6	3	12		

※令和元年度設置大学科の略称 普：普通 理：理数 音：音楽 美：美術 農：農業 工：工業 商：商業 生：生活産業（福祉を除く） 情：情報 福：福祉 総：総合学科
 ※表中の★は国（文部科学省）による指定校
 ※地域産業の担い手育成総合戦略事業の「地域資源を活用した実践研究」は○印令和元年度～、△印は令和3年度～に分けて実施「中長期インターンシップ」はⅠ～Ⅳ期に分けて順次実施、「グローバル派遣」は1～5期に分けて順次実施
 ※関連国事業 E：地域との協働による高校教育改善推進事業 F：実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究事業
 ※その他の指定事業 A：進路教育地域支援事業 B：学力向上実践研究推進事業 C：人権教育協議会研究協力校

県外募集に関するチラシ

岐阜県の県立高校では 県外から 生徒を募集します。

建築インテリア
高山工業高校

ロボット
飛騨神岡高校

ライフル射撃
関有知高校

ふるさと教育
益田清風高校

**スポーツ
チャンバラ**
不破高校

福祉
坂下高校

ヨット
海津明誠高校

音楽
加納高校

ふるさと教育
恵那農業高校

ロボコン
東濃高校

セラミック
多治見工業高校

岐阜県教育委員会

気になる県立高校のWebページを見てみよう

音楽が専門に学べる！
岐阜駅に最も近い地区有数の進学校

かのう
加納高校
募集学科：音楽科



世界のラン展で最優秀賞受賞！
地域と協働した農業の技術が学べる学校

えなのうぎょう
恵那農業高校
募集学科：全学科
募集分野：ふるさと教育



スポーツチャンバラで世界に挑戦！
少人数授業で基礎から学べる学校

ふわ
不破高校
募集学科：普通科
募集部活：スポーツチャンバラ



高い介護福祉士国家試験合格率！
充実した設備での実習は就職に有利

さかした
坂下高校
募集学科：福祉科



ヨット競技で全国制覇へ！
愛知、三重に隣接する学校

かいづめいせい
海津明誠高校
募集学科：全学科
募集部活：ヨット



観光のまち下呂市で地域の課題を学ぼう！
学習・部活に打ち込み地域に貢献

ましたせいふう
益田清風高校
募集学科：全学科
募集分野：ふるさと教育



ライフル射撃で全国制覇へ！
刃物で有名な関市の学校

せきうち
関有知高校
募集学科：全学科
募集部活：ライフル射撃



飛騨の匠の技と心を継承！
歴史と文化に育まれた高山で

たかやまこうぎょう
高山工業高校
募集学科：
建築インテリア科



ロボコン競技で世界大会へ！
自分自身で学ぶ科目を選べる単位制

とうのう
東濃高校
募集学科：普通科
募集部活：ロボコン



ロボットで世界大会へ！
神岡といえばスーパーカミオカンデ

ひだかみおか
飛騨神岡高校
募集学科：総合学科
募集部活：ロボット



陶磁器のまちでセラミックを学ぼう！
名古屋からのアクセス抜群

たじみこうぎょう
多治見工業高校
募集学科：セラミック科



このリーフレットの内容に関するお問い合わせ

岐阜県教育委員会事務局
教育総務課 教育企画係

TEL: 058-272-8729

E-mail: c17765@pref.gifu.lg.jp

岐阜県公立高等学校入学者選抜情報



※一家転住であれば、県内のすべての県立高校を受検できます。

参考資料 4

県外募集のHPの紹介

県外からの生徒募集に係るホームページの充実（リンク関係図）



○ 新聞広告

岐阜県の県立高校で 県外から 生徒を募集



出願期間 令和2年2月19日(水)
～2月25日(火) 正午

検査期日 3月10日(火)
※一部の高校では3月11日(水)にも実施

合格発表 3月18日(水)

岐阜の県立高校には、さまざまなジャンルの学びが充実しています

① 音楽 加納高校 募集学科 / 音楽科	② スポーツチャンバラ 不破高校 募集学科 / 普通科	③ ヨット 海津明誠高校 募集学科 / 全学科
④ ライフル射撃 関有知高校 募集学科 / 全学科	⑤ ロボコン 東濃高校 募集学科 / 普通科	⑥ セラミック 多治見工業高校 募集学科 / セラミック科
⑦ ふるさと教育 恵那農業高校 募集学科 / 全学科	⑧ 福祉 坂下高校 募集学科 / 福祉科	⑨ ふるさと教育 益田清風高校 募集学科 / 全学科
⑩ 建築インテリア 高山工業高校 募集学科 / 建築インテリア科	⑪ ロボット 飛騨神岡高校 募集学科 / 総合学科	

お問い合わせ 岐阜県教育委員会事務局 教育総務課教育企画係
TEL 058-272-8729 9:30～17:15 土・日・祝祭日を除く E-mail c17765@pref.gifu.lg.jp
※各校のホームページや出願手続き等の詳細については、こちらをご覧ください



○ バナー広告



岐阜県の県立高校には、さまざまなジャンルの学びが充実しています

詳しくはコチラ



ふるさと教育
福祉
ヨット
建築インテリア

ロボット
セラミック
音楽
スポーツチャンバラ
ライフル射撃

詳しくはコチラ



豊かな岐阜の文化の中で高い専門性を学ぶ

岐阜県の県立高校で
県外から生徒を募集

詳しくはコチラ

参考資料5

令和元年度 「授業におけるICT活用のアンケート」(抜粋)

回答者数	7月	高校 2,938人	特支 1,309人
	10月	高校 2,979人	特支 1,193人
	2月	高校 2,900人	特支 1,215人

1 プロジェクタの利用時間数の状況(授業時間数0の人は除く)

○1時間以上使用した先生の割合(情報の先生は除く)

	高等学校	特別支援学校
2月	67.4%	51.3%
10月	<62.5%>	<49.6%>
7月	<41.3%>	<51.2%>

○1時間以上使用した先生の年齢別割合(情報の先生は除く)

		-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60歳-
高校	2月	68.5%	77.2%	72.7%	74.2%	71.2%	69.0%	61.0%	60.0%	53.5%
	10月	<61.9%>	<73.6%>	<67.8%>	<67.5%>	<61.4%>	<65.5%>	<61.8%>	<55.9%>	<44.4%>
	7月	<41.7%>	<51.7%>	<47.3%>	<43.9%>	<41.3%>	<42.9%>	<40.5%>	<33.5%>	<25.0%>
特支	2月	54.5%	55.9%	59.4%	52.2%	51.6%	47.2%	43.3%	44.9%	42.6%
	10月	<55.1%>	<57.6%>	<56.3%>	<50.5%>	<48.8%>	<40.4%>	<41.7%>	<44.3%>	<47.4%>
	7月	<41.8%>	<58.0%>	<62.3%>	<54.5%>	<47.7%>	<45.3%>	<45.1%>	<50.0%>	<40.0%>

→高等学校では整備が進むにつれ使用割合は全世代で格段に増加

→2月調査は高等学校では50代未満はほぼ70%を越え、特に20代後半から30代の使用割合が高い

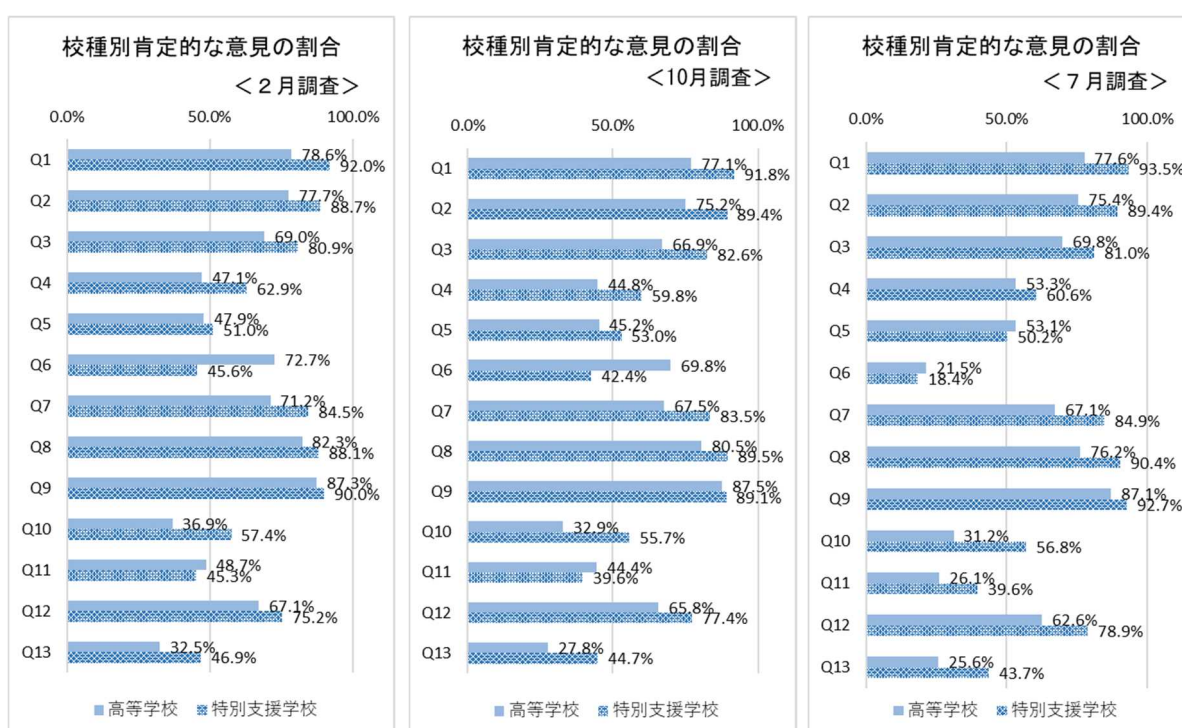
○1時間以上使用した先生の教科別割合(高校のみ)

	国語	地歴公	数学	理科	保体	芸術	外国語	家庭
2月	59.6%	75.4%	60.1%	77.9%	55.4%	48.4%	71.6%	68.6%
10月	<55.8%>	<70.3%>	<54.0%>	<73.2%>	<50.9%>	<40.6%>	<66.1%>	<62.9%>
7月	<15.1%>	<42.7%>	<19.2%>	<51.9%>	<45.4%>	<40.6%>	<38.0%>	<44.5%>
	情報	農業	工業	商業	福祉			
2月	85.7%	64.0%	71.8%	75.9%	92.9%			
10月	<85.7%>	<59.7%>	<67.8%>	<73.2%>	<61.5%>			
7月	<75.0%>	<50.0%>	<56.1%>	<68.1%>	<58.3%>			

→整備が進むにつれすべての教科で増加、特に国語、数学で顕著

2 ICTを活用した授業に対する先生方の見解

Q1	児童・生徒は学習への関心や意欲をもって取り組めるようになると思う
Q2	児童・生徒は学習内容の理解を高めることができるようになると思う
Q3	児童・生徒は思考を深めたり、広げたりすることができるようになると思う
Q4	児童・生徒が発表する機会が増えると思う
Q5	児童・生徒同士で教え合ったり、協力し合ったりする機会が増えると思う
Q6(※)	児童・生徒がノートをとる機会が減らしてはいけないと思う (10月及び2月調査の質問内容)
Q7	児童・生徒は効果的な学習ができていると思う
Q8	ICTを活用することによって、効率的に授業をすすめることができると思う
Q9	ICTを活用するためには、デジタルコンテンツの充実が必要であると思う
Q10	ICTを使うことによって、教材の準備が楽になると思う
Q11	ICTのセッティングや後片付けは負担ではないと思う
Q12	ICTを活用した授業は積極的に行うべきだと思う
Q13	ICT活用は教員の働き方改革になると思う



(※) Q6の質問内容は、7月と10月及び2月とで異なります(比較対象外)。

【3回のアンケートを通した結果の考察】

○ICTの活用が児童・生徒に与える影響について(Q1~Q7)

- ICTは学習への関心や意欲、理解や思考、効果的な学習の機会への貢献度が高いととらえている。特に特別支援学校の先生方が肯定的にとらえている。
- 高等学校の先生方は生徒がノートをとることについても大切であるととらえている。

○ICTを活用することに対する教員の印象について(Q8~Q13)

- ICT環境による授業の効率化を感じている高等学校の先生方は増加傾向である。
- デジタルコンテンツの充実については90%近くの先生方が必要ととらえている。
- 教材の準備、ICTのセッティングや後片付けの負担減や、働き方改革への貢献については、時間の経過とともに肯定的な意見が増加傾向にある。